HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	東北タイの寺院と地域社会 ： ガマラーサイ郡の寺院悉皆調査より
Author(s)	櫻井, 義秀; SAKURAI, Yoshihide
Citation	北海道大学文学研究科紀要, 121, 左171-左269
Issue Date	2007-02-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/18913
Type	departmental bulletin paper
File Information	CulturalScience121-171.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学研究科紀要 121 (2007)

東北タイの寺院と地域社会
── ガマラーサイ郡の寺院悉皆調査より ──

櫻 井 義 秀

本稿は先に本研究科紀要に発表した「東北タイの開発僧 ── 三調査比較」の続編である。従って，問題構成や先行研究の検討は前稿と同じであるので割愛した。本論文の目的は，東北タイの典型的な開発僧として紹介されてきた僧侶の社会活動を開発主義の社会史やタイの上座仏教伝統に適切に位置づけることにある。そのため，ガラシン県ガマラーサイ郡の村落と寺院の関係を対照群として提示することよって，いわゆる開発僧の事例を相対化する。そうすることによって，タイ特有の Engaged Buddhism の歴史的・地域的奥行きを出しながら，オルターナティブな地域開発・発展論の可能性と限界を適切に了解することができる。

なお，本稿の内容は，資料として付加した(本論の数倍に及ぶが)ガマラーサイ郡の寺院調査を参照していただければより分かりやすいかと思われる。

1 開発僧とふつうの僧侶のあいだ

「開発僧」という呼称は 1980 年代にタイの学者や NGO 活動家達が使用した言葉であり(泉経武，2002)，1990 年代中盤でも地域の人々には殆ど浸透していない (櫻井，2000)。「開発僧」と言われてそれは何だと怪訝そうに聞き返す人々に，地域のために様々な社会活動をされている僧侶のことだといってようやく納得してくれたものである。「そういう御方ならあそこにもいるから行ってみなさい。その村に知り合いがいるから連絡しておこうか」と紹介

してもらったことも多い。僧侶においても，「開発」事業を何かなされていますかと突然訊かれても困るが,「布施の一部を地域の小学校や中学校に寄付したり，寺院周辺の森を伐採されないように保全したりすることも『開発』になりますよ」とこちらから言えば，そんなことは昔からやっていると答える僧侶が少なくない。

前稿では，「開発僧」と呼ばれたことが一度もないし，その自覚もない僧侶も含めて，東北タイ各県の僧侶達の社会活動をみてきた。地域開発に従事する僧侶のすそ野は広い。この点をより明確にするために，特定地域の寺院を全て訪ね，寺院の開発事項を調査することにした。このように考えたのは幾つかの好条件を得たからである。

1997 年に 10ヶ月間，文部科学省の在外研究として東北タイのマハーサラカーム大学に客員研究員の身分を得たことが大きい。それまでは年に 1， 2 度，10 日か 2 週間の滞在でしかなかったので，開発僧調査といっても 2， 3 の寺院を回るのがせいぜいであった。つまり，大学講師の友人の知り合い，教え子等々のつてをたどって，地域開発に熱心であると評判の寺院を探すわけだが，先方に連絡してもらって面会の約束を取り，実際に会いに行くまでに数日かかる。数年間かけてこのやり方でケース数を 20 幾つまで集めてみたが(最終的には 32ヵ寺)，どこまで集めれば開発僧の活動実態が明らかになるものか，当初は見当がつかなかった。スノーボール方式の調査では，幾らでも事例は収集可能である。しかし，それらの事例群が寺院による地域開発のどの部分を切り取っているのか，調査した僧侶は開発に従事する全ての僧侶達の何％に相当するのか，おそらく，このような調査では最後まで見通しを得ることができないだろうと考えていた。そんな折りに，ふと，普通の僧侶を調査して，いわゆる「開発僧」との違いをみてみたら，「開発僧」なるものが分かるのではないかと思ったのである。滞在期間の三分の一が過ぎ，そろそろ本格的な調査を始めないとたいした調査データもなく日本に帰ることになるだろうなと焦り始めた頃だった。

筆者の研究は事例調査であるから，1 人の開発僧の事例でも論文は書ける。しかし，あくまでもその事例についての知見でしかない。タイの研究者を除

き，日本の研究者は，開発僧の誉れ高いナーン和尚のもとを訪ねるか，日本の研究者やNGO組織とも接触のある社会活動に熱心な僧侶の活動を紹介するものが多かった。それだけでは分からないだろうと，筆者は開発僧の事例をできるだけ集めて特徴を探ろうとしたのであるが，それがきりのない調査であることに気づくまでに数年を要したのである。社会調査論に不明であった。

調査にサンプリングはつきものである。サーベィ型の量的調査では，調査対象の母集団から無作為抽出を何度か行うことで母集団を代表するサンプルを設定する。サンプルについて得られた見解は母集団に関しても言える。このタイプの調査は母集団が明確であり，サンプリングが可能な場合のみに実施できる。ところが，社会調査では，母集団が不明である調査対象を扱うことも多い。タイで一般の僧侶に関わる調査を行うのであれば，サンガから僧籍の名簿を借りうけ，調査可能な数までサンプルを小さくする無作為抽出を続け，調査対象者一覧表を作成した後，面接か郵送で該当する僧侶に質問すればよい。ところが，開発僧の場合，そもそも開発に従事する僧侶の総数(母集団）が分からない。また，開発事項も不明確であるため，開発僧の範囲が縮小も拡大もするという融通無碍な定義しかできない。このような調査対象には質的調査しかない。それで誰でも思いつく事例研究となり，その事例を集積すれば客観性が増すと早とちりをしたわけである。

たまたま調査した開発僧の事例（サンプル）が，開発僧なるもの（母集団）と統計的な関係がない以上，事例の代表性について言えることは何もない。だから，量的調査のやり方において，事例の集積によって調査の客観性や妥当性を高めるという調査法は理論的に破綻している。では，どうすればよいのか。発想の転換が必要であった。開発僧なるもの，開発僧の一般的特徴を直接調べようとしなければよいのである。開発に従事する僧侶に関して，なにがしかの特徴を知りたいということであれば，調査するなかで明らかになってきた開発事項（実際には教育・医療・地域振興・環境保全）に着目し，それらの事項と開発手法に関して一定程度の知見が得られるまで事例を集積すればよい。代表性とか一般性というこだわりを捨て，開発に従事する僧侶

の活動に関わる問題発見，仮説提示ということでとどめるのであれば，このような調査方法がある。或いは，開発僧と評価される僧侶と，そうではない僧侶との差異に関して知見を得たいということであれば，差異が明瞭になるまで比較できる事例を集めればよい。

筆者がグランディッド・セオリーの「理論的サンプリング」「理論的飽和」という概念を知ったのは，このような研究方針に転換して，一定程度の事例の集積と比較のための事例収集を行った後である。予め知っておれば，へたに悩むこともなかったように思われるが，筆者の場合，本で読んでいたからといって実際の調査で応用可能であったかどうかは分からない。

このような経緯を経て，普通の僧侶について調べることにしたのであるが，先に述べた友人の教え子でガラシン県の教育委員会に勤務する人から，ガマラーサイ郡であれば僧団長・副僧団長が地域活動に力を入れているし，この郡の人達であれば調査に協力してくれるだろう，何よりマハーサラカームからガマラーサイ郡まで車で1時間で行ける，といったアドバイスを受けて，この郡で寺院の悉皆調査を行うことにしたのであった。

2　調査地の概況

ガラシン県ガマラーサイ郡は東北タイのほぼ中央に位置し，県庁所在地ガラシンから東南東へ約10キロ，国道214号線を車で20分の位置にある。そのまま行けば隣県のローイエットに着く。筆者が滞在したマハーサラカームの町からは北東へ約20キロ，国道2367号線を車で40分の位置である。ガマラーサイ郡は8つのタンボン（区：Dongling, Khoksomboon, Nong Phan, Lakmuang, Thanya, Kamalasai, Phongam, Caotha）からなる。ガマラーサイ郡には103の寺がある。その中には僧侶が止住していない寺もあり（隣村の僧侶が兼務），数度訪ねても不在の寺を除き，実際は81ヵ寺の調査となった。

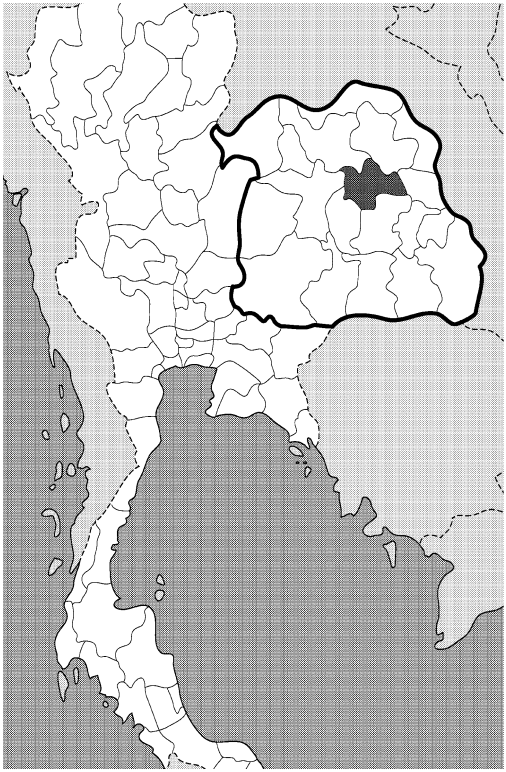

図 1　東北タイと Kalasin 県

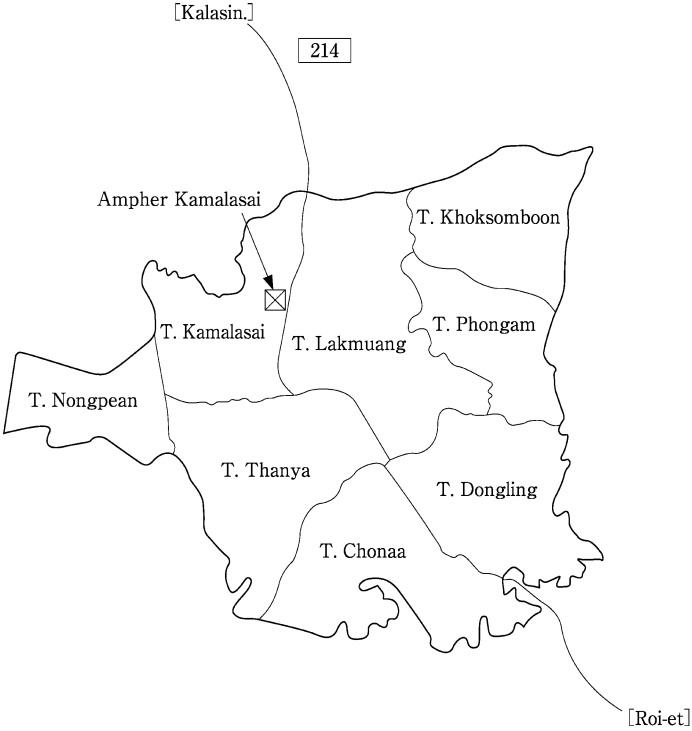

図 2　Kamalasai 郡と各区（タンボン）

ガマラーサイ郡は東北タイの中央部に位置することもあって比較的歴史が古く，およそ 200-100 年前に人々が付近を開拓し，聚落を形成した。「この村は，kalasin 県市内 huaipho 区 dongbangkao 村から移り住んできた人がつくった。しかし，この村では（マラリアのため）死亡する人が多かったので，別の所へ移っていった人も多かった。(lakmuang 区 8，12 番　huakuwa 村，村長)」「phongam 村は 200 年以上の歴史があり，Mahasarakham 県 kalasin 郡 phongam 区 phontha 村から移住したものたちである。(phongam 区，区長)」「namon 村には 100 年弱の歴史はあろうか。かつて，村人は phongam 区や dongling 区，lamchi 区から移住してきた。それ以来，この村に定住してい

る。(khoksomboon 区，区長)」郡の中心であるラックムアン区とガマラーサイ区は 200 年，周辺のコークソンブーン区では 100 年程の歴史を有するという。

東北タイにおいて開拓の歴史が古い村落は，河川の流域を除けば，水稲耕作に適した水が集まる低地にある。現在のチャックリー王朝が 19 世紀末に東北タイを実効支配し，藩主達を行政官に置き換えるまでは，地域の小都市ごとに国（くに，ムアン）を造っていた。人々の多くは自由農民であったが藩主に賦役を行った。しかし，東北タイでは封建制度が未発達なために農民は自由に地域移動が可能であり，つい 3，40 年前までは開拓者による土地の占有（ジャプチョーン，慣習的所有権）が認められていた。地域内の人口が増え，そこで産出される農作物で足りなくなると，人々はハー・ナー・ディー(良田を求める)によってフロンティアを拡大してきたのである。ガマラーサイ郡は比較的古い時期に開拓された水稲稲作地帯であり，東北タイの中でも比較的豊かな農村地帯であるといえる。

低地にある区では灌漑施設もあり，安定した稲作経営を行っている。「村人は殆どが農業に従事しており，土地なしの雇われ農民は少ない。農閑期には，多くのものがバンコクや他県に出稼ぎに行く。ブルネイにいっているものも２名いる（lakmuang 区 8，12 番　huakuwa 村，村長)。」「大半は稲作農家であり，一部，キャッサバ農家もある。村人の暮らしはよいからかなりよいまでであろうか。村の団結力は強く，問題はない。(phongam 区，区長)」それに対して，郡の縁の部分は高台になっており，換金作物栽培が多い。換金作物栽培は資本を必要とするだけでなく，値崩れによる経営失敗のリスクが高い。いきおい，出稼ぎも多くなり，村の人々も様々な生活戦略を練ることになる。「村人は大半が農業か出面仕事に従事し，家族一人あたり 3-4 ライ程度の田畑を所有している。この村は丘になっており，丘の田か灌漑用水付近の田以外では田を作れない(村名の Khok は丘の意味，sombun は豊か，村人の願いが込められているのだが)。現在の経済状態は非常に悪く，支出に見合う収入がない。収入を補完できる仕事がないので大変である。若者達は学校卒業後，皆で外へ働きに出る。しかし，中学に行くものが増え，小卒で働き

に出るものは減った。バンコクへ行くものも親戚や様々な手づるを使って出ていっている。海外に働きに出て，向こうで暮らしの良い西欧人と結婚するものもいるが，成功しなかった話も多い。西欧人の夫の助けでガソリンスタンドや精米所を建てたものもいる。(khoksomboon 区，区長)」

村落ごとに平均年収を見ると(1997 年次ガマラーサイ郡地区統計書)，市街地の Dongling, Lakmuang, Kamalasai の年収（17,000-20,000 バーツ）が高い。但し，これは市街地の商店主や勤め人の年収が加算されたためであって，農家の平均年収は低い。小売業の儲けは勤め人の数倍に及び，その勤め人(公務員の初任給は大卒で 6,000 バーツ程度）の年収は，豊かな農家の 2， 3 倍に相当する。従って，商店主や勤め人がいない村落では，年収が 3,000-4,000 バーツ程度のところもある。

タイでは，職業による収入格差が著しく，農家の 9 割方が年収 36,000 バーツ以下であり，さらに東北タイの農家であれば，数千バーツに満たないところもある。こういう現状を農家の人ほどよく分かっており，子供達にはできるならば勤め人になってもらいたいと考えている。

農業では食えても，米を売って得られる現金収入はあまりにも少ない。そこで出稼ぎをする。「現在の子供達は大半が小学校 6 年の後，中等学校 3 年まで進み，その後進学は 30%，残りは働くことになる。進学先は kalasin 市内か Mahasarakham 市内の学校である。その後は 90%バンコクで職を探す。残りは海外への出稼ぎで，台湾，日本，シンガポール，アメリカ等である。── 若者達の問題点としては，バイク等を皆持つようになって交通事故が増えたことと，麻薬・覚醒剤に手を染めるものが出たことである。(phongam 区，区長)」

村の人々の生活は耐久消費財購入や子供の教育費のために変わってきたともいえる。農家数は減少傾向にあり，農業・工業が両輪のようにタイの産業を牽引する構造はこの 20 年にうちに大きく変わるだろう。既に農業は壮年世代を中心に行われており，青年層は都市労働者になることを望んでいる。大都市近郊では農地は転売を見込んで放置されている。タイが米輸出国から米輸入国に変わったとしても不思議ではない。

表 1　職業別に見た男女別収入比（1998 年）

	専門職		管理職		事務職		販売業		農　業		運輸業		職　人		計	
月収(バーツ)	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
3,000 以下	2.6	4	8.7	6.6	2.1	4.3	49.6	54.6	87.4	90.5	18	30.5	18	31.5	55.2	61.7
3,001- 6,000	10.7	12.8	14.8	10.9	33.3	47.5	30.5	32	10.1	7.9	51	49.5	60.9	61.8	25.5	24.2
6,001- 9,000	17.9	21.1	10.1	14.7	27.1	23.6	9.7	7	1.4	0.9	18.4	6.3	13.9	5.1	8.4	5.6
9,001-20,000	50.3	50.8	36.9	41.3	31.6	18	7.7	4.8	0.8	0.6	9.9	11.9	6	1.2	8	6.5
20,001 以上	18.5	11.3	29.5	26.5	5.9	6.6	2.5	1.6	0.3	0.1	2.7	1.8	1.2	0.4	2.9	2
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

（出所）　National Statistical Office, Labour Force Survey 1998.
http://www.nso.go.th

表 2　労働人口の構成比

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
農業	47.7	44.7	43.8	43.7	41.6	42.5	41.9
非農業	47.1	51.1	52.7	53.1	51.2	51.2	52.3
失業	2.6	1.7	1.5	1.5	4.4	4.2	3.6
季節労働	2.6	2.5	2	1.7	2.8	2.1	2.2
計	100	100	100	100	100	100	100

（出所）　Department of Local Administration and National Statistical Office

なお，タイ社会の変動全般に関わる問題は拙著を参照していただきたい（櫻井，2005）。

3　寺院の活動と村落の経済

ガマラーサイ郡の寺院は，マハーニカーイの村の寺とタンマユットの森の寺，両派の僧侶宿泊所や瞑想道場等に分かれる。村の寺は村の中心にあるコミュニティ・センターであり，僧侶は村人の相談にものれば，法事をはじめとする年中行事に忙しい。

森の寺は，名称から察せられるように鎮守の森を思わせる林の中にある。東北タイの中央部にある各県では森林伐採と農耕地化が進められ，ガラシン県も，サコンナコーン県とプーパーン山地を県境とする北東部には森林が広

がっているが，平地では殆どが水田かキャッサバ等の畑作地になっている。タイの森林の大半は，北部タイのミャンマー・ラオス国境付近にあり，緩やかな丘陵地帯も畑地である。わずかに残された平地の森には，森の寺や瞑想修行の道場が設立され，森を保全することに役立っている。

表 3　タイの森林面積

地域	2000 年 (100 ha)	%
北部	96270.3	56.59
東北	26526.9	15.59
中部	21461.8	12.62
東部	8438.3	4.96
南部	17413.4	10.24

出所：Geo-Informatics, National Park, Wildlife and Plant Conservation Department

各寺院が行う地域開発の内容は，資料編のガマラーサイ郡寺院調査データに詳しく記してある。ここでは寺院の活動内容と村落の経済構造との関連についてのみ考察する。

開発僧を研究するにあたって筆者が当初考えていたことは，いわば普通の僧侶が開発僧になる社会的条件であった。開発主義の社会史的背景については既に述べた。サンガの政策に敏感な僧侶や，未だ正統な仏教に接したことのない地方の人々や山地民・少数民族を善導し，教化することに情熱を燃やす僧侶もいただろう。いわば僧侶の個人的資質や志向性から開発僧になる背景を説明するやり方もあると思うし，それが一番妥当な説明と今では筆者も考えている。そうなると，開発僧として名高い僧侶の事跡を辿ることが，開発僧研究のもっとも正統なやり方ということになる。これまでの研究の大半がこのようなものであったし，それはそれで妥当である。しかし，より社会環境的な条件を背景的要因として指摘できれば，社会学的な分析になる。

僧侶は村の人々の生活の厳しさ・辛さを目の当たりにして，僧衣をからげ

自ら地域開発の先頭に立ったという典型的な開発僧に関わる説明を，操作的に示してみよう。村落の経済水準が低ければ，僧侶の活動は，経済水準の高い村よりも活発になるのでないか。これが仮説である。先に資料として提示した各区の一世帯あたりの年収平均と寺院の活動の関連を見ようと思うが，全村落と寺院を対照したのではあまりにも表が大きすぎ，関連が見えにくい。実際は次のようなやり方でも十分であろう。年収の平均額は村落ごとというよりも，おおよそ区ごとに異なる。それは先に見たように，村落の歴史の長さ（草分け筋の豊かな農家の数）や農耕地の質（水稲耕作に向く低地か畑作しかできない高地か）により，農業経営の規模が異なってくる。また，市街地であれば勤め人・商店主が増えて年収の平均額も上がる。ここでは，市街地に接する区，水稲耕作適地の区，畑作中心の区に関して，村落ごとの年収平均額と当該村落にある寺院の活動を 2 つの表にしてみた。一つは個別の村落と寺院の活動を対応させた表であり，もう一つは区ごとの年収平均と寺院活動数の平均を示した要約的な表である。

この表からでは，村落の経済水準と寺院の活動には何の関係もないように思われる。Phongam 区でもっとも経済水準が低い Phongam 村の寺は寺院のことしかしていない。次に低い Noonhai 村の寺は全く何もしていない。Caotha 区の経済水準が高い寺院でも活動にそれほどの差はない。どの区の寺でも寺院の施設を充実させる活動はしているわけで，それ以外の活動を寺がやるかどうかは住職次第であり，経済水準と直接の関係はない。

しかしながら，区ごとにまとめてみると興味深い関係が出てくる。寺院の活動の多さは村落の経済水準と相関している。村が豊かであれば寺院にあがる財施や人手も多いわけで，それで活動の幅を広げられるというのは当然である。筆者が先に想定した村落の経済水準が僧侶の開発志向を形成するのではないかという仮説は，少なくともガマラーサイ郡の寺院では妥当しない。むしろ，村落の経済水準が寺院の活動規模を規定しているという結論を得た。

表 4　村落の経済水準と寺院の社会活動

寺院住所	村の年収平均	寺開発	教育	仏教教育	託児施設	医療・癒し	瞑想・説法	土木治水	森林保護	職業支援	自助組織	文化保護
caotha 区 6 班 thamai 村 phromrangshi 森の寺　タンマユット	19523	○	○	○								
caotha 区 2 班 muatee 村 muatee 寺　マハーニカーイ	19940	○	○	○								
caotha 区 11 班 dongling 村 surikhanaramdongling 寺　マハーニカーイ	16051	○		○		○						
caotha 区 10 班 cod 村 baanjod 寺　マハーニカーイ	19278	○		○								
caotha 区 9 班 nongbua 村 pathomkesoonnongbua 寺　マハーニカーイ	19525											
caotha 区 3 班 thasamakki 村 baanmaisamakki 寺 (寺院用地未下賜寺) マハーニカーイ	19575	○	○			○						
caotha 区 12 班 muatee 村 baanmuatee 森の寺道場 マハーニカーイ	19940	○										
caotha 区 1 班 thamuatee 村 baanthapheling 寺	18112	○	○									
caotha 区 kaonoi 村 baankaonoi 寺　マハーニカーイ	20466	○			○							
caotha 区 thaklang 村 thaklang 寺　マハーニカーイ	18269	○	○						○			○
phoongaam 区 phoongaam 村 phoongaam 寺　マハーニカーイ	10250	○		○								
phoongaam 区 donhan 村 wasangdonhan 寺　マハーニカーイ	16000	○			○							
phoongaam 区 dongsaigaam 村 srisawangtham 森の寺　タンマユット	16700		○				○				○	○
phonggam 区 khooksii 村と nongtao 村 srisawangphaibuun 森の寺　タンマユット	17000	○					○					
phoongaam 区 6 班 noonhai 村 noonhaiulithayaaraam 寺　マハーニカーイ	12500											
phoongaam 区 2 班 doonnua 村 prachaatratthaatham 寺　マハーニカーイ	16000	○							○			
phoongaam 区 phoongaam 村 phoonthoong 森の寺 マハーニカーイ	15400	○	○									
khoksomboon 区 7 班 baannongiikum 寺　マハーニカーイ	14800	○			○							
khoksomboon 区 sarakheennaamon 寺　マハーニカーイ	14350	○		○								
khoksomboon 区 naamon 村 dongnaamon 保全林の phaksong（僧宿泊所）	16450					○						
khoksomboon 区 5 班 phonthong 村 khamphonthong 寺　マハーニカーイ	14250	○										
khoksomboon 区 giugaam 村 giugaam 寺　マハーニカーイ	15400	○										
khoksomboon 区 6 班 nongphai 村 nongphaikunnatham 修行場	13125			○			○		○			
khoksomboon 区 baannongphongaam 寺　マハーニカーイ	14800	○			○							
khoksomboon 区 ratsasamraan 村 ratsabamrung 寺　マハーニカーイ	12500	○										

表 5　各区の経済水準と寺院活動

区	年収平均（バーツ）	活動数平均
Caotha 区	19,076.9	2.3
Phongam 区	14,835.7	2.0
Khoksomboon 区	12,678.1	1.625

寺院活動の規模と村落の経済水準を示唆する考え方も見受けられる。

「慣習に従って寺との関係は続いている。しかし，今は経済状態が昔より悪くなっているので，寺を喜捨で助けたり，寺の手伝いに時間を割くことができなくなっているかもしれない。（khoksomboon 区，区長）」

では，村落と寺院の関係はどのようなものと村の人達には理解されているのであろうか。

「村と学校は，寺と密接な関係を持ち助け合っている。寺は宗教局から援助金をもらっているのでそれを用いている。住職（anusawariphochai 寺の住職，安居期間は phochaihuakuwa 寺にいて，寺の管理をしている）は村の委員会の顧問であり，寺の管理運営を行い，年中行事を行うよう村人を指導する。…村人は喜捨をして寺を助けている。住職を議長にして村の開発をやるのは寺の内部に限られている。住職には寺を開発してほしい。すがすがしい場所にしてもらいたい。村人の家にも来て欲しいし，仏事もやってほしい。仏教のこと以外を住職がやることは望んでいない。（lakmuang 区 8，12 番 huakuwa 村，村長）」

僧侶には僧侶の仕事をしっかりやってほしいというのがこの地域の人の意見であり，それは農村としては比較的豊かなガマラーサイ郡だからこそと出てくる考えであろう。僧侶の仕事というのは，慣習的宗教実践である。

「寺との関係はよい。僧侶が意見を述べればみなそれをきく。村人が僧侶に相談したいことがあれば，僧侶はそれを拒否することはできない。特に，ヒート 12 のような東北タイの慣習である年中行事の施行の際にはお互いに協力し合っている。（phoongaam 区，区長）」

4　東北タイの普通の僧侶と寺院

村と寺，村人と僧侶の関係は深い。僧侶・寺院は地域の社会資本であり，寺院の発展に村人の布施が欠かせない。村が貧しければ，村人の布施が減り，寺院は説法所ないしは本堂，布薩堂，庫裡，鐘楼，山門，火葬台といった寺院に必須の施設を建設できない。村のことより寺院の発展を考える僧侶であっても，村人から支えてもらわなければ何もできないので，村人の暮らし向きに無関心ではおれない。また，村人にとっても，寺院はコミュニティ・センターである。寺は村人達が学問に接する最初の窓口でもあったし，寺の小僧になればとりあえず食べることはできた。「かつては寺に沙彌として少年達が多くいたものだが，今は殆どいない。（lakmuang 区 8，12 番　huakuwa 村，村長）」教育の機能は学校へ，扶養の機能は行政の社会福祉政策にかなりの程度代替された。とはいえ，信心深い村人は仏日や安居の期間にお籠もりを現在も行っている。殆どが年寄りであるが，高齢者の社会的役割として寺院の活動が村人に認知されている。そうであれば，日常，そして将来自分たちが関わる寺を貧相な状態にしておくわけにはいかない。

筆者はガマラーサイ郡の寺院を回り，調査の寺院数が 30 を超える頃には，寺の整備状況や清掃のいきとどき具合から，なんとなく村の経済状態や村民の協力関係を推察できるようになった。但し，東北タイでは，村をめぐっているうちに村の経済とは不釣り合いな，巨大で壮麗な寺院に遭遇することがある。これは 1980 年代後半あたりから 1990 年代にかけて，好調なタイ経済の恩恵のおかげではぶりのよかった資本家や政治家が，信奉する特定の僧侶に寺院を一式献上するということがはやったからである。そのような寺は森の寺に多いが，住職の低音でささやくような，しかし説得力のある話しぶり

や独特の雰囲気にカリスマ性を感じることがある。少なくとも，周囲の村出身で一時出家のまま数年の安居を経過した若者の僧侶や老年期に再出家したような老いた僧侶とは，語彙や話しぶりが全く異なる。こうした寺院を寄進する都市民は僧侶への私淑もあるのだろう。しかし，清廉とはいえない経済や政治で儲けた金をマネーロンダリングして宗教的財に転換する，ないしは，寺院を献上することによって得られる最高の功徳という象徴的な社会資本を武器にして，有権者の支持を得るというねらいもあったのではないかと思われる。

このような寺は村と殆ど関わりがないか，布施の余剰分がトリックル・ダウンとして村に及び，道路や水道などのインフラ整備に使われる事例も見られた。従来の開発僧の研究では全く見落とされていた観点ではないかと思う。つまり，寺に布施として集積された資金は寺の発展及び，村落への還流的資金として利用される。出稼ぎのために人手が不足して，伝統的な労働交換であるゆいが親族間ですら行えなくなった村では，資本や労働力を融通しあって村落の発展を図るということは極めて難しい。NGO/NPO が地域住民の信用組合や共同経営の組織を作ろうとしても，実際はなかなかうまくいかないのが現状である。村落における富農と小作農，或いは，経済成長から取り残された地方農村と，繁栄している都市をつなぐ結節点が寺院である。富農は地位相当の布施を様々な行事で出す。出稼ぎ者は都市で稼いできた金の一部を布施することで安全と家族の幸せを祈願する。社会的名望家を目指す様々な人々が寺に布施を申し出る。このようにして集積された布施は，ある程度の寺の化粧が済んだ後，地域社会へ還元されることで公共財に変わるのである。

つまり，寺院の僧侶は，村の道路や水道の整備，学校への教育資金・機材の寄附，託児所の設置（これは壮年世代が出稼ぎで不在となった村で，祖父母に託された子供達を保育するため，宗教局が寺院に援助するプロジェクトを後追い的に始めた）に始まり，郡や県の中核的寺院では仏法を学ぶ日曜学校の併設，僧侶によってはタイ方医療を用いた施術院の開設にまで及ぶ。こうした文字通りの社会資本を備える原資をかなりの程度，寺院が提供してい

る例がガマラーサイ郡でも見られた。しかも，筆者の調査先では，僧侶も地域の人達も，このような活動を開発僧の仕事とは認識していなかったし，開発僧とも呼ばれていなかったのである。地域における寺院の機能の中に地域開発の項目は含まれており，これが顕在化するかどうかはひとえに寺院にあがる布施の高と，僧侶のイニシアチブにかかっている。また，村人の功徳を積もうという信仰心が公共財の形成につながっていることも事実である。西欧社会における教会を通じたチャリティ活動，イスラーム圏のザカート（財産税）やサダカ（喜捨），或いは 1950 年代以降にアジア地域で無利子金融のイスラーム銀行が設立されるなどの動きにも通じるものがあるのではないか。

しかしながら，このような富の偏在を是正する宗教的メカニズムは，タイにおいて皮肉な結果をもたらしている。タイの多くの人々は，納税や慈善活動，NGO/NPO への支援を行うよりは，寺院に功徳を積むことを選好する。国民の一員として，或いは市民社会の一員として社会に奉仕するというのは義務の観念である。他方，宗教的な救済財の約束は自発的な行為を導く。タイの NGO/NPO は長らく外国の NGO/NPO に活動資金を頼ってきたが，近年の経済水準の上昇により，資金提供を打ち切られ，資金難に陥っている。もっとも，2005 年末の津波災害時には，プーケット県，クラビー県に多くのボランティアが駆けつけ，さながらタイにおけるボランティア元年であった。タイの人々の利他的行為がどのような感情や理念を媒介に作動しているのか，今後とも注目する必要があろう。

以上が，開発僧とふつうの僧侶に共通した特徴であったが，先行研究の開発僧の事例に対して新たな視点を啓くことになる論点も幾つか得られた。

第一に，1970-80 年代のナーン和尚の時代，或いは 1990 年代前半くらいまでに，政府と地域開発 NGO に主導された農村開発の現場で多く見受けられた開発の旗振り役としての僧侶が減ってきている。村長をはじめ，村人に聞いても，僧侶に開発のリーダー的役割を期待している人は少ない。むしろ，僧侶には寺のこと，精神的な事柄をやってほしいと述べる人が多かった。これはタイの農村自体がこの 20 年余りの間に急速に経済の面で底上げがなさ

れた結果であろう。

既に，1985 年の時点で，先述した開発僧研究者のピニットは，土木治水事業・自助組織形成は，村落の経済レベルに応じて僧侶が全面に出て指導者になるか，後方から後援者の役割を果たすかが決まってくると述べていた（Laphathanan, 1986）。1990 年代中盤にいたって，僧侶は NGO/NPO がやっていた地域開発の領域から撤退したとみてよいだろう。地域開発の中身が，インフラ整備から社会保障・福祉的施設，精神修養に移行している（浦崎，2002）。開発の中身はまさに多様化しつつあり，僧侶・寺院本来の社会的役割の領域に回帰しつつある。

実際，瞑想修行を行う道場や僧侶の庵に人々が集まっているのを見かけることが多い。大学の教師や公務員，商人や農民等，集まる人達は雑多である。彼等が共通して体験していることは，社会変動のあまりの早さである。日本の農村地域が 50 年かけて経験した社会変化を 10-15 年で経験しているのではないだろうか。テレビから流されるコマーシャルの洪水，ドラマの都会的な暮らし。それらに刺激を受けて田舎町や村の人達もおしなべてバンコクの方を向くようになる。自家用車を買うために殆ど給与の全額をローン返済につぎ込む共働きの勤め人夫婦。5 年で返済し終わる頃には，20 万キロ以上走った車の限界も近い。儲かる話は転がっているはずだが，浮き沈みが激しい暮らしに安定感を得られない商売人は案外に多いのではないか。農民の暮らしぶりは先に述べたとおりであるが，次世代には農民になることを期待しない彼等の日常は厳しい。日々の暮らしの先に何があるのかを思い悩む人々は多い。

第二に，現在も多面的な社会開発を行い，人々から崇敬を集める僧侶や寺院の特徴は，知識人や NGO/NPO に注目される思想性のある開発僧とは異なり，僧侶のカリスマ的雰囲気や巧みな説法，霊験あらたかな祈祷や施術であることが多い。村人は合法違法を問わず，宝くじの当選番号の予想を僧侶の言動に求めたり，様々な厄災の祓いや各種の祈願を僧侶に求めたりする。師弟相伝の薬草や骨接ぎ・按摩の知識もそれなりの需要がある。東北タイの場合は，僧侶が，モータムと呼ばれる呪医の役割を兼ねているものも少なく

ない。モータムは出家経験のある在家の仏教徒であるが，精霊崇拝を核とする民俗宗教が仏教の守護力を利用しながら独自の宗教実践を作り上げてきた（林，2000）。高価な町医者よりは，モータムや僧侶の下に通う村人は現在も少なくないし，西欧医学では治療効果の少ない慢性病に悩む町の人達にも信頼されている。現在は，タクシン政権の医療改革により，どんな病気でも 30 バーツ（約 100 円）で診療を受けられるようになったが，それなりの薬が処方される。高額所得者は ICU を付設しホテル並みのサービスを誇る私立病院に行く。医療の谷間を埋めるわけではないが，呪医や祈祷師の活躍する余地は未だある。

本節を要約すると，筆者の知見が先行研究に付加するものは，タイの上座仏教の僧侶が開発に従事するようになった社会史的脈絡と，僧侶に求められる社会的期待が変化していく社会変動の脈絡をより明確にしたということであろう。一部の開発に従事する社会的発言力を持つ僧侶が語り，知識人や NGO/NPO の活動家が支援するオルターナティブな人間開発・社会開発の理念は，上座仏教のエッセンスであろう（西川潤・野田真里編，2001）。しかし，そのエッセンスは，公共宗教や民俗宗教としての複合的性格を併せ持つがゆえに，人々の精神をとらえるものとなる。タイにおいてはグローバリゼーションへ対抗する草の根の言説となるが，同時にタイのナショナリズムとも通じる要素があることに注意したい（矢野，2004）。そのバランスは中道の思想といえども，語り手が考える以上に難しい問題をはらんでいるのではないかと思われる。

5　まとめ

開発僧として典型的に描かれる僧侶の活動は，瞑想修行による自己の内面の開発と，村落の経済水準を高めるために社会資本の充実を図る地域開発の活動と要約される。先行研究では前者の人間開発の観点が思想的なオルターナティブ性として高く評価されたが，それはことの一面でしかない。現実の開発実践では，一般庶民の布施を用いて社会資本を充実する寺院の機能は，

コミュニティ・センターとしての伝統的な寺院の機能に由来するものであったし，人々の崇敬を集める僧侶の能力もまた伝統的なものであった。

ガマラーサイ郡において，ふつうの僧侶の活動や村人が考える村と寺院との関係から見えてきたものは，タイの寺院と地域社会の伝統的な関係である。この関係を土台として，寺院は寺を立派にし，余剰資金で教育資金を学校に提供したり，タイ方医療を寺院内で施術したりする。オルターナティブにみえるタイの僧侶の活動は，タイ上座仏教が伝統的に地域社会で果たしてきた機能なのである。

参考文献

林行夫，2000，『ラオ人社会の宗教と文化変容 ── 東北タイの地域･宗教社会誌』京都大学学術出版会.

泉経武，2002，「村落仏教と開発の担い手の形成過程 ── タイ東北地方「開発僧」の事例研究 ──」『東京外大東南アジア学』第 7 号.

西川潤・野田真里編，2001，『仏教・開発（かいほつ）・NGO』新評論.

Laphathanan, Phinit, 1986, *botbaat phrasog nai kaan phathana chonabot, sathaban wichai sangkhom mahaawithayalaai Chulalongkon*（『地域開発における僧侶の役割』チュラロンコン大学社会科学研究所 1986）

櫻井義秀，2000，「地域開発に果たす僧侶の役割とその社会的機能 ── 東北タイの開発僧を事例に ──」『宗教と社会』 6 号，27-46 頁.

櫻井義秀，2005，『東北タイの開発と文化再編』北海道大学図書刊行会.

浦崎雅代，2002，「多様化する開発僧の行方 ── HIV/エイズ・ケアに関わる開発僧の出現を事例として」『宗教と社会』8：79-92.

矢野秀武，2004，「タイの上座仏教と公共宗教」『岩波講座　宗教 9　宗教の挑戦』岩波書店.

ガマラーサイ郡寺院調査データ

1
［名前］Somsri Katabunyo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 Polo 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 Polo 村　Phochai Polo 寺
［僧位］pra prat
［年齢］58
［安居年］17
［学歴］小 4
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職　なし
［僧団内地位］なし
［生育歴］Polo 村に生まれ，農業を営んでいたが，何をしたらいいのか，どうやって生きていったらいいのか，分からなくなって，出家した方がいいと思い，決心した。Kalasin 県 Somdet 郡の寺で出家した。自分はパーリ語をさらに勉強したいと思い，寺を出て勉強しようと思っていたが，Chaimongkhon 寺の郡僧団長が許してくれなかった。寺から出ると管理する人がいなくなり，寺が荒廃するということだった。
［開発内容］ 1）鐘楼，火葬台，説法所，休憩所，寺院を囲む塀の建設。現在，説法所を取り壊して，講堂を建設する予定。村内の学校生徒に昼食を出す。学校の運動施設へ寄付。10 区と 13 区の村の施設に，備品を寄付。同地区保健所のボランティアセンター支援。Chaimongkhon 寺で沙弥を勉強させるために出してやる。2540 年 10 月より託児所付設。
［仏教の教え］ 2）村人に説法。特に話題は決めないが，団結心の話しなど。仏日に寺に来るおよそ，男 7 人女 49 人の在家信者に説法。
［特技］サイヤサートによる病気治療，交通事故や精霊に取り付かれたようなときに，霊験あらたかで神聖な呪文を唱える。治療に訪れるものが多いし，殆どが治る。病院に行っても，病気の原因そのものをどうこうすることはできないからだ。スリン県で象使いをやっていた老人からこの術を習った。彼の故郷では皆信じており，どこに行くにも，こうした有り難いものを身につけて行くのだという。
［開発の問題］青年の薬物中毒問題に関心を持つ。時に捕まり，寺に連れてこられるものもいる。夕方，寺の作務を終えてから，住職は寺の周辺の地域に麻薬をやっているような若者の溜まり場をを訪ねて回ることを日課にしている。時々沙弥も同行する。村の経済状態は厳しく，貧しいものはとことん貧しい。豊かなものはとことん豊かである。（豊かなものが多く持ち，貧しいもの，中間の階層のものは少ししか持たない。）村には農民，雑貨商，路線を走る車の運転手など豊かなものがいる。それ以外は，田植えが済めば，キノコを作ったり，いろんな雑業に従事したりしており，外国に出稼ぎしているものは 3 名，スイス 2

名，台湾 1 名である。

2
［名前］Kraisorn Yasapalo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Huakwa 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Huakwa 村 Phochaihuakwa 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］51
［安居年］15
［学歴］中学 3 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし
［開発開始年］2526
［生育歴］出家する前は農業に従事した。2524 年に出家した。最初は，母親の追善供養に慣習に従い出家した。出家した後，Kalasin 県の Chaimongkhon 寺にて仏教学の勉強をし，1 級を取得する。安居期間には，2537 年より Huanong 村の Anusawareephochai 寺に行っていたが，この寺が十分発展したので，元の寺に戻って安居するようになっている。
［寺院］比丘 2 人。沙弥 1 人。
［開発内容］Anusawareephochai 寺と現在の寺における開発事項は，僧堂の建築である。建築以外には，布薩堂にて仏法修行の指導，村人のために公共の場で仏法を教える，生徒たちに仏法を学校等で教える，就学前の幼児保育所の設置がある。ここには 90 人の園児，4 人の保母がおり，宗教局から費用として月 3000 バーツほど支給されている。
［特技］説法等。
［仏教の教え］仏法を教え，規律を身につけさせることである。
［開発の問題］年中行事，他の事業をやる際に予算が不足する。宗教局に申請しているが，いい感触がない。
［支援者］宗教局が保育施設に資金提供。県の僧団。タンボン行政機構。人々の喜捨。
［将来計画］寺院内に建築したいものはまだある。また，村人と一緒に，電気・水道などの公共事業を行いたい。

3
［名前］Kasem Paphatsaro
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 Nong-Egum 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Huanong 村 Anusawareephochai

寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］53
［安居年］ 6
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし
［生育歴］出家する前は農業と，農繁期以外にバンコク，ガラシン県，或いは南タイで建設労働をやっていた。以前，25 歳の時に Nong-Egum 寺で 3 年ほど僧であったことがあり，還俗した後，再び，母親の追善供養のために 47 歳で出家した。
［寺院］Phochaihuakwa 寺と協力関係にある。
［開発内容］寺の周囲を整頓しておくこと。年中行事の時に説法すること。寺の周囲から出て，事業を行ったことはない。
［特技］読経。
［仏教の教え］ヒート 12（東北タイの慣習）を守ることと，五戒を守ること。
［開発の問題］なし。
［支援者］村の指導者と，村人。
［将来計画］僧堂や庫裡の建築，寺の塀など。今以上に寺を整備したいが，予算がない。あれば，すぐにでも着手するが。

4
［名前］Sawan Putsawaro
［出身］Kamphangphech 県 Khrongkhom 郡 Wangyang 区 Nongsong 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Padonyang 村 Padonyang 森の寺タンマユット
［僧位］なし
［年齢］32
［安居年］12
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］なし
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし
［開発開始年］2536
［生育歴］僧としての学歴がないのは，弟が出家しパリエン 5 段まで進んだにもかかわらず，精神を病んでしまったからである。そこで，勉強しすぎると精神がおかしくなってし

まうということで，仏教学等はやらなかった。

出家する前は農業をやっていた。16 歳で沙弥になったが，これは習俗・慣習に従ったまでで，強制されたわけではない。その後はずっと森の寺にいる。私の教学の師は，Shit Titsawangsoo 師であり，チェンラーイ県，チェンマイ県，メーホーソン，ビルマ国境付近などの山をめぐりながらの頭陀行を行っていた。こうした頭陀行により学習していった。自然の中の生活には偽りがなく，自然そのものである。頭陀行の目的は仏法を広めることにもあったが，実際はあまり説法をする機会がなかった。山地民に僧侶と一緒にタンブンを行うことで行をするよう指導したが，彼等は喜んでいた。なぜなら，彼等は精霊信仰から仏教を信じるようになったからである。3 年の頭陀行の後，この森の寺に戻ってきた。

今の自然環境は，僧侶が昔のような頭陀行をするには適していない。現在は場所を選んで頭陀行に出るか，それも，安居明けの期間に限るかと制限されたものになっている。

［寺院］この寺には安居を過ごす僧侶 4 名，メーチー 2 名がいる。彼等はそれぞれの庫裡に住んでおり，食事，読経，作務の時にのみ顔を合わせる。それ以外は分かれて，それぞれの行を行う。

寺は，森の寺であり，2524 年に建立され，最初の住職は亡くなった。この寺は 70 ライほどの入会森の中にあるが，土地の権利証書（no. so. 3）がない。3 つの部落，Huanong 村 11 班と Huakwa 村 8 班と 12 班が，この森の木を火葬に使うことになっている。2536 年に森の一角を僧に献上し，僧侶がここで安居を過ごし，庫裡をたて，水道と電気を引くようになったものである。

村人達が寺を訪ねてくるのは，難儀をしてのことである。電気を引こうにもどうしてよいか分からず，また，予算もないといった類の話であり，なんとか解決してやりたいと考えた。

［開発内容］この寺の開発は，庫裡，僧堂，台所の建設と，電気・水道の布設である。開発方法であるが，これは僧侶が自力でやってしまう。しかし，自分たちでできない場合に村人の協力を頼む。電気・水道付設に関しては，チェンマイのメージョー大学で工学を学んだ僧侶がやった。このものはもう還俗して何年にもなるが。

［特技］なし

［仏教の教え］布施と五戒を守ること，正しい行いをすること。まず，自ら布施，施すことを先にする。悪から離れ，善行をなす。仏教の教えに従って，こころを明朗にする。

［開発の問題］村人で開発に関心を保つものは少ない。しかし，大きな問題にあたるとみなで協力することができる。涼しい顔して知らないふりをするものはいない。しかし，最初は手を貸そうとするものが少ないので僧侶が始める。そこで村人から募金して回ることはない。今年は村人も関心をもってくれそうである。

［支援者］外部からの資金援助はなく，ガチン祭とパーパー祭の喜捨だけである。

［将来計画］村人のために，火葬台を建築することと，庫裡の修繕，そして，村人の信仰を高めることである。

5
［名前］Pathomthammarakkhit
［出身］無回答
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Pathomkesaram 寺　マハーニカーイ
［僧位］師僧
［年齢］無回答
［安居年］無回答
［学歴］無回答
［仏教学習］無回答
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］副郡僧団長
［生育歴］Nongtuwittaya 学校の教師であり，出家経験もある Witchai Chan 氏が，この僧侶の本を編集した。この本から関係箇所を抜き出したデータである。
［寺院］この寺には 5 名の僧侶と 8 名の沙弥がいる。
［開発内容］開発を行った理由として，1）子供達に道徳心を涵養する。子供が寺に来るようになれば彼等が大人を連れてくるようになる。 2）貧しい子供達に学ぶ機会を与えたい。

開発項目は，建築したものとして以下にあげるもの。

1）Lat 村の寺に布薩堂を建てたが本堂と電気の付設はまだ。火葬台。布薩堂の修復。瞑想修行場。 2）教育については，パーリ語と仏法を教える学校，大人のための学校の開設であり，僧侶が朝晩務め，仏日には信者がタンブンに集まる。祈祷，瞑想，Mondop の周回，5 戒の遵守を説く。 3）託児所の開設。152 名の子供を 7 名の保母で面倒を見ている。4）仏教日曜学校の開設(2527 年)。近隣の村から来た子供達に僧侶と信者が仏教を教える。仏教の歴史，道徳等。8 時から読経，祈りを行い，9 時から 12 時まで学習を行う。小学校 1 年から高校 3 年までいる。成績優秀なものには奨学金の試験を受けるように指導する。5）Lat 村の学校に奨学金の支給。黄衣奉献祭にて資金を集める。 6）現在，二階建てで 20-30 年前の古い品々を展示する博物館の建設を考えている。まぐわ，鋤など農具，本棚等々。これらは寄進物である。 7）その他，村人の様々な相談に応じる。例えば，貧しくて火葬代を出せないものへの相談とか。 8）同師は文化面での功労が認められて，2540 年から Kalasin 県の宗教局文化委員会の委員になり，地域文化の振興に貢献している。

師はモーヤー（民間薬草医）として，自分で薬草をこしらえる。卒倒，排血，白帯下，腹痛等の内服薬，つぼや靱帯等の痛み止め等。昔は村の物知りに学んでいたが，近年は，Mahidon 大学の研修や，Roi-et 県，Kalasin 県，郡などでの研修を受けている。

モータム（民間呪医）として，人間にとりついた各種の精霊を抜除可能。結膜炎や頭痛のために呪文を唱えて息を吹きかける。頭痛で寺まで来ることができないものは寺に電話

し，和尚に頼めばよい。和尚が呪文を唱えてくれるので，頭痛はほどなく快癒する。
　モーナンマン（民間油医）として，傷や骨折を治す。ゴマ，椰子，果実等で作ったもので，塗ってもよいし，食事に混ぜてもよい。
［特技］テート・スィアン各種可能。パーリ語と仏教学の教授。その他，モーヤー，モータム等の医療行為に通じている。
［仏教の教え］僧侶として，仏法，瞑想，仏法の遵守，仏の知恵など，仏教において重要なことを説く。
［開発の問題］なし
［支援者］寺に来る様々な人々。村々にタンブンなどで呼ばれ説法をした際に受け取る喜捨などを用いる。
［将来計画］郡の僧団長のために，Mondop を建立したい。それ以外は僧堂を拡張するなどである。

6
［名前］Maha Anan Nimmalo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 1 班
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Keatsamakhom 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］53
［安居年］33
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級，パリエン 8 段
［寺院内地位］住職　［僧団内地位］区僧団長
［生育歴］出家する前は農業に従事。20 歳で出家したが，信仰と慣習による。出家したときは何も分からなかったが，学ぶ中で少しずつ仏教を理解していった。それで僧侶を続けようと決心した。Keatsamakhom 寺で仏教学 3 級を学び，2 級と 1 級は，Boarabausalaram 寺（マハーサラカーム県ボラブ郡）で学んだ。その後，2508-2509 年を Mahasarakham 寺で安居を過ごし，バンコクの Thepthidaram 寺でパリエンを学んだ。2510-2535 年までそこで安居を過ごしたが，それから，この Keatsamakhom 寺に戻ってきた。
　知識を与え，心の内面，宗教的情操を高めるという僧侶の仕事以外に，この僧は，自分の老衰した母親の扶養するという仕事がある。庫裡の近くに母親をおき，面倒を見ている。
　帰ってきたのは，自分が学んで大いに自身を啓発したことを教えたいと思ったことがあるが，最も大きな要因は母親の扶養であった。もし，父親がいてそれができるならよかったのだが，いないので自分が引き受けなければいけなかった。
［寺院］僧侶 4 名，沙弥なし。

[開発内容] 1)Thepthidaram 寺にいたときは，そこに付設された学校で仏法とパーリ語を教えていた。行事があるときは，そこで大切なことを一般の人々に教えていた。それで，自分が行ってきた開発は教育に関わることであった。 2)帰ってきてからは，ここに布薩堂を建築した。比丘や沙弥，在家の人達に，仏を拝むことを教え，道徳や信仰，朝晩の務め，5戒を守ることを教えたが，毎夕村人が集まってくるようになった。 3)年中行事があるときは儀式を行う。そこで，仏法を説く。また，僧侶への招請があれば，行政の仕事など，様々なところへ出かけていき，儀式を行い，法を説く。 4)開発の仕方は，仏法を説くことである。仏教で大切な日を教える。例えば，今日は仏教でいえば何かと関係がある日かどうかなど。そうしてから，在家の人達と一緒に，仏塔の周りを右回りに3周する。
[仏教の教え] 仏法の教えとして，最低限5戒を守ることが何よりも大切であり，また，子供や青年達に強調しているのは，父母や学校，社会的地位のある人を敬う態度・価値である。
[開発の問題] 村人が僧侶の活動を理解しないこと。村人の行動や宗教的に大切なことを欠いているなどについては，宗教を受け入れているものが半数くらいしかいないということであろう。仏法に背く行いが生まれていること自体，開発の障害であり，仏教の理解が十分でないことを示す。しかし，村人は僧侶の活動に反対するほどではない。
[支援者] 村人。行政や民間の職員。
[将来計画] 将来について語ることは難しい。ここでの開発が完了するためには皆が力を合わせなければならない。考えだけ述べても意味がないのだ。しかし，考えていることをあげることはできる。

つまり，病院，学校などの公共的施設の支援である。寺院における教育に関しては，寺の中に学校を作るというのは難しいだろう。しかし，行いと内心の事柄に関して教育をするのは可能である。

この寺に関しては，予算は少ないがそれほど問題はない。村人が忙しくて一緒に活動できないことが問題である。
[その他] バンコクの僧侶と地方の僧侶では全く異なる種類のものである。しかし，教えられることは同じであり，規律を守るという点でも同じである。バンコクでは僧侶は必ず托鉢に出なければならない。また，僧院な内の水道代とか電気代も自分たちで払わなければならず，僧院に財団をもっているところもある。地方では，村人が助け合って全てのことをやってくれるところが異なる。しかし，こと教育面に関しては，20-30年に戻って考えるにしても，バンコクの方がいいと思われる。

地域における僧侶の役割とは，考えるに，タイ人は仏教と密接な関係を持っており，生まれてから死ぬまでその関係は切れることがないため，僧侶はタイ人の社会生活に対して大きな役割を持っていると言えるし，社会に貢献できることは多いだろう。特に地方ではそうである。僧侶は地域の指導者である。村人は何かことを始めようとする際は，僧侶に相談しに来るものである。

7
［名前］Khampun Satharo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Lat 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Lat 村 Shattharaum Ban Lat 森の寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］36
［安居年］9
［学歴］中 3 と職業教育教員免許証取得　及びラムカムヘーン大学ローイエット校で学習中
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］区僧団長秘書
［生育歴］Lat 村で出家。前職は，バンコクのシャングリラホテル接待客務係。出家のために休職して僧侶になったが，そのまま現在まで僧侶でいる。
［寺院］2 名の僧侶
［開発内容］開発事項は，火葬台の建設。日曜学校で仏教を子供達に教える。Lat 村でも説法。安居期間に 40 名ほどの村人が寺に籠もりに来るので説法をする。
［特技］テートスィアン。タイプ。自分で料理することなど。
［仏教の教え］タンブンをしなさい。
［開発の問題］なし。村人と森の寺の間の分離といった障害を取り除く。森の寺と村人のやり方は同じではないので。
［支援者］黄衣奉献祭でくるバンコクの人達など（村出身者の喜捨）。
［将来計画］庫裡の建設など，寺を立派にしていきたい。

8
［名前］Oon Rakkhittathammo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Lat 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Lat 村 Lat 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］27
［安居年］3
［学歴］小学 6 年　現在中学課程のインフォーマル教育を受講中
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし

［生育歴］出家する前は，労働者。出家は慣習に従ったまで。出家したら，このまま僧侶でいようと考えた。

昨今の人々は宗教に余り関心を持たないので，自分は仏教を深めていきたいと考えた。

［寺院］5名の僧侶，1名の沙弥。

［開発内容］仏日に村人に説法をする以外に特に開発事項はない。仏教行事等があれば，村の放送塔から村人にアナウンスをする。仏日には40名は村人が籠もりに来る。

布薩堂は，Lat村出身の僧侶で，郡の副僧団長であったPhromthamrakkhit師が，村人と協力して建設したものである。

［仏教の教え］仏法の説法等。

［開発の問題］予算不足だけ。

［支援者］村人しかいない。

［将来計画］寺を立派にしていきたい。村人に仏法を説くなど。

［社会的地位］　［開発開始年］［印象等］

9

［名前］Uthai Ophaso

［出身］Kalasin県Kamalasai郡Lakmuang区

［寺院住所］Kalasin県Kamalasai郡Lakmuang区Noonsawang村Phosrinoonsawang寺　マハーニカーイ

［僧位］なし

［年齢］54

［安居年］6

［学歴］小学4年

［仏教学習］仏教学2級

［寺院内地位］副住職（住職は死去）［僧団内地位］なし

［寺院］僧侶は2名，沙弥は1名。

［生育歴］無回答

［開発内容］開発事項は，寺の周囲の塀，山門の建設。火葬台と鐘楼を建設中。

［特技］仏日の説法。趣味として鶏を飼っている。この鶏は，村人が寺にタンブンの時に来た際など，この僧から買っていく。

［寺院］（この寺を訪問した際，僧侶は2人ともテレビに夢中であった）

［仏教の教え］三蔵を把持する。

［開発の問題］なし

［支援者］村人と郡の役人。［将来計画］火葬台と布薩堂の建設。

10

［名前］Intharawichai (in)
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 Donwai 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Phangsrimuang 寺　タンマユット
［僧位］師僧
［年齢］58
［安居年］38
［学歴］小学校 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級　パリエン 3 段
［寺院内地位］住職（2519 年より）
［僧団内地位］経験多数，引退　Kamalasai 僧団長秘書，Kalasin 僧団長秘書，Kamalasai 僧団長を歴任。
［生育歴］Doonlai 村で出生。2502 年，Phangsrimuang 寺にて最初の出家，仏教を学ぶ。戒和尚は，Kalasin Sahassakhan 師僧であり，瞑想法は Khan Janthapatchotoo から学んだ。瞑想法は 16 歳で沙弥の頃から学んだ。
［寺院］現在，７名の僧侶
［開発内容］１）仏日ごとの説教。朝晩の仏法の講義。葬儀，様々な儀礼などのタンブンの時に，或いは，寺や村人に招請されて出かけたときに，仏法を説く。　２）村人に瞑想法を指導する。50 人ほどの村人が 12 時から布薩堂で瞑想を行う。　３）大きめの庫裡，住職用の庫裡，メーチー用の庫裡，公衆トイレ，物品庫の建築。　４）布薩堂の修復。寺院の塀の建設。布薩堂をコンクリート製にする。寺の山門から火葬台までの道をコンクリート製にする。寺を物陰でもすがすがしく，きれいなように整える。　５）Kacana（仏陀の十弟子の一人）の模型像を造る。　６）教育面に関しては，２，３回ほど Kamalasai 郡の小学校用に教育委員会あてで寄付したことがある。その他，ノート，本などの学用品を多くの学校に何度も寄贈している。　７）森林を保護するべく，植樹。センダンやつづらふじ等タイ方医療薬の木を植える。　８）水道付設や黄衣奉献祭の時には村人が力を合わせてやってくれる。
［特技］特になし。
［仏教の教え］何度も，様々な説法･読経を行う。読経の頭の部分をあげれば，Phut-Tho，Lookae，Uphanno。その意味は仏陀がこの世に生まれたということである。
［開発の問題］それはある。開発を進めることそれ自体ではなく，開発をするにあたって予算が不足しているということである。
［支援者］民間の組織が，建築に来てくれる。或いは，境内の道をコンクリートにしてくれると申し出る者など。
［将来計画］いろいろ計画はあるが，なにぶん予算が不足している。

11
［名前］Phrapalatphim Phathanapanyo（Phim Kongnarong）
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Bung 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Bung 村 Ban　Bung 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］79
［安居年］24
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 2 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］郡僧団長
［生育歴］元は公務員。2511 年 5 月 11 日に Chaimongkhon 寺で出家した。戒和尚は，現在，Kalasin 市内にある Sriboonruang 寺にいる Praomjariakhun 師。また，同市内の Glang 寺にて研修を受けた。
［開発内容］ 1）僧侶の仕事。2526 年に Kamalasai 郡の Ban Lat 寺にて三蔵を教える。仏教の布教。一般の人達，若者，主婦のグループなどへの道徳に関わる研修。寺に籠もりに来る者，仏法を聞きに来る者は常時いる。安居期間は 250 人，タンブンに来る者は 116 人来た。 2）地方の慣習的儀礼をやる。地方の習俗を守る。 3）サンガとの協力。行政とも協力し，若者や主婦グループ向けの研修に寺院を提供する。 4）2512 年，4 万バーツの予算で僧堂を建設した。2515 年，37,900 バーツの予算で中央僧堂を建設した。2521 年，13 万バーツで寺の周囲の塀を建設した。2525 年，12 万バーツで庫裡を一棟建設した。2530 年，25 万バーツで火葬台を建設した。2533 年，27 万バーツで布施をする僧堂をさらに建設した。 5）これ以外に村の内部でやったことは，道をきれいにしたり，道路脇に水飲みを置くようにしたり，道路脇に木を植え，庭をきれいにするなど，村人に働きかけた。或いは，非常時に備えて井戸を掘ったり（いくつかは出た），災害にあった人を助けたりなどした。 6）また，寺院内にも植樹し，境内を整頓，美観の維持につとめている。 7）2530 年から村の開発委員を務めている。
［特技］建設。
［仏教の教え］仏法の重要な教え，道徳，四聖諦などを説く。
［開発の問題］予算を確保すること。時には不足して困る。
［支援者］村人やタンブンに来る人達，或いはタンボン行政機構など。
［将来計画］布薩堂の建設や，僧堂の建て替えなど。

12
［名前］Siriphothitham

［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Bung-hai 村
［寺 院 住 所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Bung-hai 村 Phosri　Bung-hai 寺 マハーニカーイ
［僧位］師僧　Phrakhrupanya
［年齢］66
［安居年］46
［学歴］初級教員免許証取得
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］区僧団長
［生育歴］生まれは Roi-et 県の Selaphom 郡だが，家族がこの村に移ってきた。比丘になる前に沙弥を 2 年やっていた。出家した理由は，俗世での経験は十分に積んだので，仏法によって規律・秩序を学ぼうとしたからである。
　最初に出家したのは，Kalasin 県 Rongkham 郡の Pathompangsri 寺である。頭陀行には 9-10 間ほどでるが，Kalasin 県や Chiang-rai 県にいった。2500 年より住職をしている。
［寺院］僧侶 5 名　沙弥なし。
［開発内容］ 1 ）庫裡，僧堂，火葬台，鐘楼などの建築。 2 ）仏日ごとの説法。道徳心を持つように村人の内面を啓発。仏日には寺に来て，戒を守るよう指導。普通は 40 名，多いときには 90-100 名の村人が来る。 3 ）瞑想修行の指導。歩行瞑想や祈念の指導など。 4 ）村人に自然農法の紹介。 5 ）村人の相談に応じる。村人は日常的に寺を訪れ，住職に相談するので。とりわけ，村内の道路，僧の寝床などについて。僧侶は開発に関して村人を指導する義務と役割を与えられている。 6 ）教師を助け，若者の指導をする。 7 ）2540 年から託児施設の開所。
［特技］在家の人達に法を説く。説法僧のやり方で。
［仏教の教え］安詳（心が自然で落ち着いた状態），羞恥心（罪を恐れること），報恩（両親，師に対しての）などを教える。
　また，仏教を尊ぶことは，タイ国民の義務であるなどを説く。
［開発の問題］村人の多くは住職が話したことを守りよくやっており，問題はない。
［支援者］村人。よそから来て，タンブン儀礼を主催する人など。
［将来計画］農業の開発をやりたい。なぜなら，農民の生活を今以上にしてやりたいからである。

13
［名前］Saat Sujitto Roi-et
［出身］県市内
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Lakmuang 区 Lao 村 Chaisri Ban Lao 寺　マハー

ニカーイ
［僧位］なし
［年齢］70
［安居年］ 7
［学歴］高校 3 年
［仏教学習］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職代理
［僧団内地位］なし
［生育歴］Roi-et 県市内で出生。高校 3 年終了後，商業学校に進学したが，修了せずに，公務員になった。郡教育長下にある小学校の教師になった。Roi-et 市内の Amnueywitthaya 校で教え，その後，結婚して，妻の出生した村である Boa 村に 2495 年に来た。もう，45 年になる。

出家した理由は，飲酒などの悪癖から逃れたかったからである。アル中であった。Roi-et 市内 Phuphan 区の Ban Khokphila 寺にて出家した。

雨安居に入って 10 日目にこの寺に移って来て，3 ヶ月経ったばかりである。住職が正式に決まりこちらに来られれば，私の役目は終了する。この寺には僧侶が常住することが少ない。

村では常住する僧侶がいない場合，隣村の Bung-hai 村の Ban Bung-hai 寺の僧侶を招請してタンブンを行う。
［開発内容］ 1）村人のために，タンブンや年中行事を行う。 2）現在，寺を開発している最中であり，道路に砂利をひく，植樹する，村人に伝える拍子木を備えるなど。副村長やタンボン行政機構の人達が手伝いに来る。 3）境内に菜園を作り，村人に任せている。 4）郡内のマラリアをなくす。かつては，この近辺はマラリアの巣であった。現在は特効薬ができて問題ないが。しかし，Phechaboon 県や Prajeanburee 県の森林から帰ってきた兵隊はこの病気にかかっていることがある。
［特技］薬学の領域に知識がある。かつて，薬学関連の勉強をした。マラリア撲滅のボランティア組織で有能な医者（正式なものではない）であった。
［仏教の教え］五戒，八戒を守る。
［開発の問題］あまりない
［支援者］村人。副村長，タンボン行政機構
［将来計画］仏法を学ぶための僧堂。既に託児施設設置の認可を取ったので，その施設の建設。
［その他］村落の経済状態を考える。郡役所の言い方では，この村は貧しい。学校もない。隣村まで 2 キロも歩いて通わなければならない。小さな子供達のために，小学校を設置したいものだ。

14
［名前］Phromma Thawaro
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区市内
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Paknam 村 12 班 Anomanathee 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］71
［安居年］4
［学歴］中学 3 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］副住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Kamalasai 郡市内に生まれる。沙弥になったことはない。しかし，21 歳で出家し，25 年間 Chaimongkhon 寺で僧侶であった。Kamalasai 郡僧団長とは友人の仲である。2514 年に還俗して，労働者をやっていた。田を持っていなかったので。家族は持ったことがない。年をとり仏教への信仰が出てきたので，もう一度出家した。
［寺院］僧 1 名　沙弥 1 名
　前住職は死去。
［開発内容］1）火葬台の建設。植樹。仏日ごとの説法。12 人ほどが寺に籠もりに来る。　2）精霊により病気になったものに対して，符呪を唱える。悪霊にとりつかれたとき，和尚は呪文を唱えて，精霊を呼び出し，病気の人についている理由を尋ねる。病人の加減が相当に悪いときは，精霊にすぐさま退散するようういう。精霊の中にはしつこいものがおり，なかなか出ていこうとしない。和尚はろうそくに火を付け，それを口にくわえ，精霊が体の中に入り込んだ人に炎もろとも息を吹きかける。病人の髪の毛が焦げるようなものもいる。しかし，ここまでやると，頑固な精霊も病人から出て行かざるを得なくなる。
［特技］モータム，モーピーである。精霊を退散させる。心霊のわるさのせいで病気になったものの治療をすること。例えば，取り憑かれて狂ったようになったもの。ピーボープ(内臓を食べ尽くす森の精)。或いは，正気を失っているもの，知的障害者など。
［仏教の教え］戒を守る。信仰する。道徳の研修をする。仏教を知らしめ，仏教の中核となる教えに従って行動する。
［開発の問題］なし。村人は協力して生活している。
［支援者］森林局。村の学校の先生。村人。ガチン祭，黄衣奉献祭，ブン・プラウェート祭などのタンブンに来た人など。
［将来計画］山門を修繕したい。それが終わったら，庫裡という具合に，自分が死ぬまで寺院を整えていきたい。
［その他］村人の生活は，まずまずといえるが，水田は限られているので，それだけでは十

分に食べていけないものが出てきている。彼等は様々な雇われ仕事をしていかなければならない。或いは，市場でものを売るか。市場が近いので便利ではあるが。

15
［名前］Awut Ajaro
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 7 班 Namjan 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 7 班 Namjan 村 Thamalanathee Namjan 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］54
［安居年］7
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［生育歴］Namjan 村に出生。出家する前はバンコクで 34 年ほど，ペンキ塗り，家具の職工などの労働者をしていた。その後，結婚し，バンコクで家族を持った。しかし，2526 年に離婚。
　出家の理由は慣習に従い，両親への報恩ということで 1 年間の出家をしたが，そのまま現在に至っている。
［寺院］僧侶 5 名　沙弥なし
［開発内容］1）寺の開発として，火葬台，遺体安置所等の建設。庫裡の建築はまだ不十分なままで，2 階はできているが，階下はまだ。寺の中でやっていることはたくさんある。2）学校で自我の教育ができるように奨学金を出す。　3）村人が仏教に従い行動できるように教え，社会での実践力をつけるよう導く。仏日ごとの村人への説法。25-30 名の村人が寺に籠もりに来る。　4）就学前児童の保育施設の設置を申請中である。宗教局から予算の配分を求めているが，まだ来ていない。今年の経済状態の悪さ故であろう。
［特技］ない。あるとしても，法を説き，慣習を知っていることである。
［仏教の教え］持戒。信仰。団結力等。
［開発の問題］なし。
［支援者］村人だけ。120 世帯。彼等がよく寺のことをやってくれる。村の中には 200-300 世帯もあるが，お寺に来るものはどこの村でも少ない。
［将来計画］就学前児童の保育施設の設置のみ。
［その他］村の経済状態についていえば，100 を超える世帯の内，4，5 世帯のみが豊かといえる。あとは中位か貧しい部類である。90％が農民であり，5％が雇われ労働者，残りの 5％が公務員である。

16
［名前］Bai Phuthasaro
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpean 区 Sema 村 7 班
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 Donploi 村 5 班 Saat-Chaisri 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］74
［安居年］24
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Sema 村に出生。出家前は農業に従事。家族がおり，息子と娘が 1 人ずつ。
　出家した理由は，ひきつけをおこす慢性病にかかり，医者にみてもらったが治らなかった。そのうち，薬や日々の食料を買う金もなくなった。このような病気は遺伝病（業，カルマのせい）であり，父親から受け継いだものである。出家したところ，病状が良くなり，また，薬を買う金もできた。仏法を体の中に入れている。
　2529 年より住職
［開発内容］1）この寺に常住する前は，庫裡と僧堂があるだけだった。僧堂といっても中は整っていなかった。そこで，鐘楼，寺の周囲の塀などを作った。　2）学校に奨学金はやったことがない。この村は戸数が 50-60 戸の小さな村である。　3）村人に持戒，布施をするよう指導する。仏日に寺に籠もりに来るものは 10 名ほどである。
［特技］なし。
［仏教の教え］道徳，仏教の重要な部分を教える。説法はそれほど深刻な話ではなく，子供でも大人でも聞けるように，頭を使うようなことは余りいわない。
［開発の問題］自分の身体が痛むことと，村人があまり寺のことに関心を持たないという点を除いては，ない。
［支援者］黄衣奉献祭で村人と一緒にやる。しかし，あまり布施の額は多くない。外から来る人で，この村が出生地で Kamalasai 市内に住む県議会員の Prasit 氏が貢献している。
［将来計画］村人に仲良くしてもらうことであろうか。お金が絡む問題については，私が自ら行く必要のないことなので。
［その他］村人は仏教に今ひとつ関心がない。これは僧侶のせいかどうかは知らない。むしろ，彼等の性質の問題とも言えよう。
　村の経済状態については，貧しいものが多く，豊かなものは少ない。しかし，食べることに関しては，みなそう困ってはいない。

17
［名前］Thaing Banyattiko
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpean 区 Sema 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 Khaolam 村 Ban Khaolam 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］36
［安居年］9
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Sema 村で出生。出家前は農業に従事。この寺で出家した。出家した理由は慣習に従い，友人達と出家したのであるが，その後，還俗使用と思わなかった。
［寺院］僧侶 4 名　沙弥 1 名
［開発内容］1）火葬台の建設。僧堂の建て替え。 2）2540 年から就学前児童の託児施設の設置。 3）学校等へ奨学金をやったことはない。 4）年中行事等があれば，皆で協力するようにいったり，調整役をしている。 5）仏日ごとに村人に説法を行う。寺に籠もりに来るものは 10 名ほど。
［特技］なし。
［仏教の教え］吉祥の神聖なパーリ語の呪文
［開発の問題］なし。村人は協力し合っているから。
［支援者］村人。バンコクへ出稼ぎに行っている若い衆など。役人は殆ど来ない。
［将来計画］特になし。

18
［名前］Phing Kamphutthasiri
［出身］Janthaburee 県
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 Khaolam 村 Padongmafaibut-sabaram 寺　タンマユット
［僧位］なし
［年齢］40
［安居年］6
［学歴］小学 6 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職臨時代理

［僧団内地位］なし。
［生育歴］Janthaburee 県に出生。Janthaburee 県 Thamai 郡で公務員をし，家族を持っていた。その後，出家のため，公務員を辞めた。
　出家した理由は，信仰をしたかったからで，それから，師匠が私にここにいるように命じた。
［寺院］僧侶 3 名　沙弥なし。
［開発内容］ 1)寺の開発については，まだ寺の概観を示すようなものは十分に建設されていない。この寺にある仏陀像とかは前の住職がここに持ってきたものである。 2)学校への奨学金配布。 3 ）村人への瞑想修行指導。仏日は特に。 4 ）村人への仏法の説教。13 名ほど来る。
［特技］なし。
［仏教の教え］瞑想の修養。
［開発の問題］なし。
［支援者］村人。Ayutthaya 国会議員。この土地が彼から分与され，建物が建てられたときに，放送された。(国会議員が信仰心を示して，政治的権勢を正当化するために喜捨したと思われる。櫻井註)
［将来計画］寺院内に水のタンクが欲しい。また，この寺の土地を買って増やしたい。村人で分けるというものがいるが金がない。この寺は 2 ライほどのとちであるが， 2 ヶ所ほどの古い死体埋葬地であった。
［その他］Janthaburee 県とこの村の経済状態を比較すると，Janthaburee 県の方が，工業があり，宝石類の鉱山もある。しかし，ここでは村人の性格がいいので，過ごしやすい。

19
［名前］Prayurn Katapunyo
［出身］Khon Kaen 県 Phuwiang 郡
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 6 班 Donyangjantharam 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］23
［安居年］ 3
［学歴］小学 6 年
［仏教学習］仏教学 3 級を学習中
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Khon Kaen 県 Phuwiang 郡に出生。小学校卒業後，よそに働きに出た。友人と一緒に生活したりして，家に戻ることは少なかった。青年期にもなると村にいるよりも外

に出た方が勉強になる。私は好奇心が強く，いろいろな経験をしたがっていた。

出家したときはこの村にいた。先の住職が亡くなっており，また自分の父親も死んだので，追善の供養と，ここの村人達に恩返しをしたいと思い，出家し，そのままいる。

頭陀行はしたことがない。しかし，この年末に頭陀行に出る予定はある。Udonthanee 県にいってみたい。行く先までの距離によっては自動車に乗って適当なところまで行き，その先歩くかもかもしれないが。今，Udonthanee 県の歴史の本を読んでいるところで，興味深い。今は，年中行事が多いので，出かけることはできないが。

［寺院］僧侶１名　沙弥１名。

［開発内容］１）境内の樹木に，格言や座右の銘などを板に書き設置している。２）村人が寺のことや村の開発に関心を寄せるよう指導する。３）仏日ごとに村人に説法をする。５，６人は寺に籠もりに来る。タンブンや年中行事の時は多くの人が訪れるが，農繁期に来る人は少ない。

［特技］なし。信仰はあるが，いろいろな治療儀礼等はできない。

［仏教の教え］善行や社会への貢献とか，麻薬撲滅などの話を分かりやすく説く。

［開発の問題］なし。村人がよく協力してくれる。

［支援者］村人。この寺はバンコクの Pathomwan にある Pathomwannaram 寺の Phawanathisantho 師のネットワークに入っているので，その関係で支援を得ることはある。

［将来計画］このままこの寺で過ごしたい。67 歳で死去された先の住職を弔い，村人にも恩を返すためにも。

［その他］この村の経済状態は他のタイの地域と殆ど同じであろうが，この村の経済状況が心配である。

今の政府のやり方に関しては，性急な判断を下すよりも，しばらくみてから判断しないといけないだろう。

20

［名前］Laungpoonaon Attathammo

［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 3 班 Songyang 村

［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 3 班 Songyang 村 Phochai Songyang 寺　マハーニカーイ

［僧位］なし

［年齢］35

［安居年］2（初回 12 年）

［学歴］不明

［仏教学習］仏教学 2 級

［寺院内地位］副住職

［僧団内地位］なし。
［生育歴］Songyang 村に出生。出家する前は農業に従事し，寺院の世話をする役であった。最初に出家したのは 21 歳の時で，12 年ほど僧侶であった。還俗して結婚したが妻が亡くなったので，再び出家した。
［寺院］僧侶 3 名　沙弥なし。
［開発内容］1）仏日ごとの説法。50-60 名ほど寺に籠もりに来る。安居入りは特に多い。2）火葬台の建設中。　3）就学前児童の託児施設は計画しているが予算不足でまだできない。　4）先日は草刈り機を購入するため，12,000 バーツを学校に寄付した。　5）寺院内の建築に関しては，庫裡，僧堂の改築，布薩堂について，住職が建設の中心になった。住職の名は，Phochai 師，70 歳で 20 安居年。住職は，Mhorphee Mhorsaiyasart（呪医）の能力がある。悪い奴から身を守る能力を与えることができるので，撃たれても不死身の体にしてやることができる。しかし，今，師は老衰であまり元気がない。
［特技］疾病の神霊治療ができる。呪医。Mhortham Mhorsaiyasart.
［仏教の教え］仏教の歴史を村人に説く。
［開発の問題］なし。
［支援者］村人。民間の人々で寺に来る人達。
［将来計画］寺，村，学校との関係などで開発できるところは，おいおいやっていく予定である。この寺に収入があれば，村と学校に分けてやる。

21
［名前］Pheng Paphassaro
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 Sabua 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 5 班 Sabuaratpradit 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］72
［安居年］10
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］出家前は農業に従事。最初の出家は，20 歳の時。そして，1 年もせず還俗。妻は 74 歳で現存。子供も 7 人をもうけ，1 名が死んでいる。皆，農業をやってくらしをたてている。
　出家した理由は，最初，1，2 年ほど僧侶になってみるつもりであったが，僧侶になってからずっとこのままやろうと思った。この 5，6 年ほど住職をつとめている。

［寺院］僧侶３名　沙弥なし。
［開発内容］境内をきれいに清掃する。僧堂，火葬台，庫裡の建築。2540 年 9 月に，就学前児童託児施設の設置予定。
［特技］なし。
［仏教の教え］108 つの善果の話とかの説法。いろいろな本から適切な話を抜き出して語る。
［開発の問題］なし。
［支援者］この村以外から寄付や喜捨等をもらったことはない。
［将来計画］布薩堂と鐘楼の建設。

22
［名前］Sangjan Siriwaro
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 9 班 Doonyung 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 9 班 Doonyung 村 Silarak Doonyung 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］68
［安居年］3
［学歴］小学 6 年
［仏教学習］仏教学 1 級　パリエン 4 段
［寺院内地位］副住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］別の村で生まれたが，この村で育った。2493-2506 年の間，14 年間僧侶であった。出家したのは，学習欲からで，パエエンの 3-4 段まで進んだが，それ以上には行けなかった。それで，テートスィアンの練習を 7 年ほどやったが，これもあまりものにならなかった。それで還俗し，家族を持った。
　2 度目の出家は，息子からの助言による。息子は商売をしたがっていたが，元手がなかった。それで，私は神霊治療ができるので，もし，出家して僧になれば，かなり儲けられるのではないかということであった。（息子を助けたのである：櫻井註）
　2 年間は Chaimongkhon 寺で安居を過ごし，それからこの生まれた村に戻ってきて，1 安居を過ごした。
［寺院］僧３名　沙弥なし。
［開発内容］１）境内に石と盛り土を運んだ。87,000 バーツかかり，その後さらに 1 万バーツの石を運んだ。　２）寺院の修復。　３）Kamalasai 病院に VIP 用の病室設置のために 8 万バーツ寄贈した。また，病院に医者用の宿舎を建築する予定だが，ガチン祭がまだ終わっていないので，金が集まっていない。　４）寺の周囲の塀。まだ，完全ではないが。　５）

学校には奨学金などまだ支給していない。財源が不足していたからだが，2540 年からは実施の予定。 6)村人に団結を呼びかける。村人に日常的に仏法を実践することを説く。仏日ごとの説法。寺に籠もりに来るものは 30-60 名ほど。 7)僧の宿泊所(瞑想修行の道場)に村人を誘う。現在，そこには僧侶がいない。 8)病気のものに，薬草の処方，呪文，聖水，神霊治療を行う。治療方法の学習，薬草の学習も行っている。薬草医のグループのメンバーにもなり，研修等にも出席する。1 日に 5-10 人ほどの患者が来る。全く来ない日もあるが。 9)以前は，薬草サウナも作った。しかし，資金が続かなくなりやめた。2541 年から，このために喜捨してくれるという人物が現れたので再開する予定である。 10)この寺の前は平地で風が強く，ほこりがひどいので，道に敷き詰める石が必要である。5,300，5,000，78,000 バーツと三回ほど道路修繕に使った。
[特技] 薬草医，神霊治療医
[仏教の教え] 持戒，団結，信仰，慈悲など，仏法で最も大切と思われることを説く。
[開発の問題] なし。
[支援者] 布薩堂建築のために宗教局が 10,000 バーツほど予算を支援。それ以外は，ガチン祭，黄衣奉献祭の喜捨，村人からの布施でまかなった。
[将来計画] あと， 5 年で 12,000,000 バーツかけて仏塔を建てたい。村から寺に続く道の建設。14,000 バーツほど予算は取ってあるが，たりないのでいつ完成するかは分からない。いろいろなことで村人助け，導く。

23
[名前] Palatsomsri Katabunyo
[出身] Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 10 班 Polo 村
[寺院住所] Kalasin 県 Kamalasai 郡 Kamalasai 区 10 班 Polo 村 Phochai Polo 寺　マハーニカーイ
[僧位] なし。
[年齢] 58
[安居年] 17
[学歴] 小学 4 年
[仏教学習] 仏教学 1 級
[寺院内地位] 住職
[僧団内地位] なし。
[生育歴] Polo 村に出生。出家前は農業に従事。出家した理由は，何をしたらいいか分からず，何をしてもこれまでと同じだという思いがあって，出家を決意した。Somdet 郡の寺で出家し，そこでそのままパーリ語を勉強したかったが，Chaimongkhon 寺の住職が，今の寺は誰も面倒をみるものがいないので，帰るようにいわれ，戻ってきた。
[寺院] 僧侶 2 名，沙弥 1 名。

［開発内容］ 1）鐘楼，火葬台，説法所，山門，寺の周囲の塀の建設。現在，説法所を解体しており，新しく僧堂を立てる予定。 2）2540 年から就学前児童託児施設の設置。 3）村人に仏法の説教を行う。昔ながらの村の団結を説く。 4）村内の小学校児童に昼食の提供。学校の運動会に資材等を提供。 5）村の 10，12 班の仕事を手伝ってやる。 6）村の公共施設を運営するボランティアの支援。 7）Chaimongkhon 寺で沙弥として学ぶこの村出身の子供達の支援及び助言。 8）仏日ごとの説法。寺に籠もりに来るものは男性 7 名，女性 49 名である。 9）呪文，聖物などによる神霊治療を行い，交通事故，精霊の憑依等々を治す。患者は結構多く，だいたい治る。医者によっては，父母からの遺伝（因果）など分からず，調べても何の原因か判定できないことがある。師は surin 県で像を飼っているところにいったこともあり，そこで，この種の神霊治療をいろいろと見聞してきた。10）若者で薬物中毒になっているものの相談にのる。中には，そのものをつかまえてきてそのまま出家させることもある。夜のおつとめが終わった後，師は寺の周囲をパトロールする。そこらで薬物を吸飲したりするものがいるからである。そういうものが見かければ追いかけ，つかまえたときは用水路にたたき落としてやる。2527 年よりずっとこうしてきて，村内の薬物中毒者を減少させてきた。

［特技］Mhorphee, Mhortham（呪医）である。聖水作成。車の御祓い（車の天上に吉祥の点粉をする）等。

［仏教の教え］報恩，5 戒の遵守。慈悲喜捨を説く。

［開発の問題］ある。わけの分からぬものもいる。アル中のものとか。法律的な規制によってよくしていなかいといけないのではないか。

［支援者］村人。村の娘でスイスやドイツ人と結婚したものがおり，彼等が寺を助けてくれる。

［将来計画］スイスに仏教を伝えに行こうと考えている。2541 年の 1 月にスイスの Markutz という人の案内で行くことになっている。もちろん，これは区，郡，教区の僧団長から認許の書状をとらないといけない。道を求めているもの，様々な理由により難儀しているものを救わなければならない。これは自分がやろうと思ってやっていることである。たぶん，死ぬまで少しずつこうしたことをやっていくのだろう。

［その他］この村の経済に関しては，貧しいものはとことん貧しく，金持ちは本当に金を持っている。中位の階層にいるものは少ない。殆どが農家であり，その他行商や雑貨店経営，キノコ栽培など。外国で働いているものは 3 人いて，2 人はスイス，1 人は台湾に行っている。

24

［名前］Janthi Kittigo

［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 7 班 Nong Ekum 村

［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 7 班 Ban Nong Ekum 寺　マ

ハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］40
［安居年］20
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］副区僧団長
［生育歴］Nong Ekum 村に出生。両親は農業に従事。沙弥の経験はない。21 歳で慣習に従い出家したが，そのまま今に至っている。仏教学 3 級はこの寺で学んだが， 2 級と 1 級は Roi-et 県 Phonthong 郡の寺で学んだ。
［寺院］僧侶 2 名　沙弥なし。
［開発内容］寺の周囲の塀を建築。2539 年に就学前児童の託児施設を設置，2-4 歳の 84 名の子供達がいる。これは宗教局の事業である。村人に開発や村内の清掃を指導。仏日に説法。
［特技］テートスィアンはできない。説法のみ。
［仏教の教え］持戒を勧める。
［開発の問題］予算のないこと。たいていは黄衣奉献祭で喜捨を集める。
［支援者］村人のみ。
［将来計画］塀はまだ一方向が建設されたのみなので，周囲にめぐらせたい。
［その他］この村は殆どが農民なので，彼等の生活，経済状態はよくないだろう。

25
［名前］Phrom Janthawanglo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 Namon 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 Sakhaen Namon 寺　マハーニカーイ
［僧位］師僧
［年齢］65
［安居年］30
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］区僧団長
［生育歴］沙弥の経験はない。出家前は農業，日雇い，労働者をやっていた。Nongkhai 県で生活しており，子供が 1 人いた。妻はその土地の出身。計 4 回ほど結婚し，35 歳で出家。

出家した理由は，間男した妻もおり，この世のものは永遠ではないと悟り，仏教を信仰してみようと思ったからである。
［寺院］僧侶 2 名　沙弥なし。
［開発内容］布薩堂，庫裏，寺の前の溜池の建設。
2532 年に仏教を教える日曜学校の設置。小学 5，6 年から中学 2，3 年まで 120 名ほどの子供達に教えている。
仏日ごとに，瞑想修行と仏塔を周回して祈念するよう指導。
Khoksomboon 区にある 6 つの寺の管理・指導。
村人と協力して開発を進める。バンコクやチョンブリ県などで働く村の関係者から，ガチン祭などの折りに喜捨を集める。
［特技］説法のみ可能。テートスィアンはできない。
［仏教の教え］仏法の習得，持戒，善行，仏法に従った行い，自分だけのことを考えない，一致団結など。
［開発の問題］予算不足。この村では天水依存の稲作であり，溜池や灌漑用水路がないので，大変である。
［支援者］なし。
［将来計画］村に水道を敷設し，村人に清潔な水を飲ませてやりたい。境内をきれいにし，植樹も進めたい。本を読める場所を作りたい。僧堂の改修及び本堂の礎石のの改修。

26
［名前］Samrit Phutthathammo
［出身］無回答。
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 Namon 村 Dong Namon 保全林の Pakchong（僧宿泊所）
［僧位］なし
［年齢］43
［安居年］2
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 3 級
［寺院内地位］なし。
［僧団内地位］なし。
［生育歴］父親に頼まれて出家したことがある。おまえは，出家前は相当の放蕩三昧をしたので，還俗してくれるなと，子供にさとした。還俗すれば，また同じように放蕩するだろうからと。
出家する前は村で雑貨店や自転車・バイク修理などの仕事をしていた。たいした仕事はこれまでしてこなかった。子供が 4 歳の時に妻と離婚し，生きていれば，もう，その子は

20 歳になっているはずである。かつては船に乗り，漁や漁師の食事を船で作っていたこともある。子供は姉の家に預けていた。漁に遠くに出かけて，帰ってきたときに，自分の家族は台風に遭い，高波・洪水にのまれて，子供やその他大勢の人が亡くなった。父親もなくなった。その後，僧侶を呼び，災難を取り除いてくれるように願った。

出家した理由は，それからというもの，人生に張りがなくなり，仏教を学んでみようと思ったからである。

［開発内容］現在は僧宿泊所周辺の整備に手一杯であり，日中は本を読むか，宿泊所の屋根を葺いている。あまり，村の人達もこない。それで一人でやっている。平日は 2， 3 人，仏日でも 4， 5 人が来るだけである。ここで在家の人が休め，仏教を学べるようなところにしたいと考えている。

［仏教の教え］毎日，仏法に従った行いをする。

［特技］聖水を作ることができるが，それを塗り薬にするほどには至っていない。効能があったので村人が求めに来る。現在はあまり使われていない 15 種類の呪文を用いて，完成度の高い聖水を作ることができる。研究中である。

［開発の問題］問題は森の件である。自分が宿泊所付近の森を切り開いていると，僧団長の僧が警察と一緒にやってきて，ここを開墾したのは確かにあなたかと尋ねられた。自分はそうですが，開墾した部分はほんのわずかですと答えるた。その方は，僧の宿泊所ではなく，ここには寺が造られるべきであるといい，ここに自分がいることを望んでいないという言い方をした。そこで，自分は，今は安居の期間であるから移動するにふさわしくない時期である，安居が開けたら，ここにいるのか，別のところへ行くのか，その時に話し合おうということを言った。しかし，どこかへ行くといっても，村人から招請を受けなければ，移動の先がない。また，ここに入るときも，村人は入ってくるなと言ってはいないし，自分に敬意を示してくれた。この森は，昔墓所があったところで，古い寺院の跡地でもある。自分はよそへ行こうとは考えていない。この件はまだ解決がついていない。

（櫻井註　森林保全が寺院及び僧の役割であることは確かであり，僧といえども勝手に森を開墾することはできない。しかし，実際に開墾した部分は森林面積にすればわずかである。また，僧団長は寺院設置に関わる僧団への上申，管轄の権限を持つ。この僧侶が僧団長と折り合いが悪いために，僧宿泊所の設置をめぐって葛藤しているものと考えられる。）

［支援者］最初は全て自分でやったが，その後，他のところの村人がやってきていろんなものを寄進してくれるようになった。村の人達もたまに手伝ってくれる。

［将来計画］仏法と一般社会に関する本が読みたい。寺に安置する古い仏像がほしい。この宿泊所を寺にして，整備していきたい。

27

［名前］See Siripanyo

［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 5 班 Phonthong 村

［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 5 班 Phonthong 村 Khamphonthong 寺　マハーニカーイ
［僧位］下から 2 つめ　Samu
［年齢］72
［安居年］16
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［生育歴］出家する前は農業に従事。家族はこの村で生活している。子供は 8 名いる。妻は出家する前に亡くなった。
［寺院］僧侶 1 名のみ
［開発内容］僧堂，庫裡，寺の塀の建築。
　仏日ごとの説法。10-20 名の村人が寺に籠もりに来る。
　寺の内部に米銀行がある。運営は政府の指導で村人があたり，住職は後見役をしているだけである。
［特技］ゴザを編むこと。
［仏教の教え］五戒の遵守。善行，美徳。
［開発の問題］あまりない。資金は余りないが，ほどほどにやっている。村人も食べて生活していける。
［支援者］村人と学校の生徒が手伝いに来てくれる。
［将来計画］布薩堂の建築と僧堂の改築。現在は資金がないが。

28
［名前］Boonsuk Panyakamo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 3 班 Giewgam 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 Giewgam 村 Giewgam 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］74
［安居年］ 4
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 2 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］出家する前は農業と大工をしていた。現在，家族は Namon 村に住んでいる。子供達は 3 人おり，2 人はバンコクで会社員をやっており，一人娘は結婚し，その村にいる。

出家した理由は，俗事に関わる仕事をやめて休息したかったからである。
［寺院］僧侶3名
［開発内容］1）僧堂，庫裡の建築。 2）村人にタイの慣習に沿った生活を教えること。3）仏日ごとの説法。 4）開発の資金は，バンコクで働いている村人から出してもらうことが多い。
［特技］説法を行うこと。
［仏教の教え］報恩。持戒。聴聞。
［開発の問題］村人は寺に来てくれているのでほとんどない。
［支援者］村人だけ。宗教局からも支援を受けたことはない。
［将来計画］布薩堂と境内にめぐらす塀の建築。

29
［名前］Simchai Jaruwanno
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 6 班
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 6 班 Nongphai 村 Nongphai-kunnatham 修行場
［僧位］なし
［年齢］40
［安居年］5
［学歴］高校3年
［仏教学習］仏教学1級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］出家前は農業に従事し，家族もあった。しかし，結婚生活がうまくいかず，離婚した。
沙弥は5年ほどやった。Roi-et 県の Buraphaphiram 寺で出家し，Thatum 区の寺で安居を過ごした。それから，Nongwai 村や Kudwiang 村，Hangfuei 村の寺にもいった。Roi-et 県の寺で仏教学3級を取り，最後に，Nongphai 寺に勉強に来た。2539 年に仏教学1級を取る。Udom 和尚に瞑想法を師事した。それから，Roi-et 県の Phakwaen 寺の Ophansuphakit 師のもとでさらに勉強した。
［寺院］僧侶2名。沙弥なし。
［開発内容］1）この場所は何にも使われていない衰退森（伐採地跡）であった。2539 年から，そこに瞑想修行のため1年ほどかけて庵を建てたが，次第に村人が来て周辺を整えてくれるようになった。Roi-et 県の Suwanso から守護霊の木をもってきて植えてくれたりした。 2）開発事項として，村人の相談相手。宗教行事の実施。村人に寺に行くように勧める。15-20 名の村人が仏日には籠もりに来る。 3）僧団長猊下の誕生日を祝う。 4）

2539，2540 年に沙弥の出家式を行う。 5) 寺の宣教計画として Ophansuphakit 師の説法録音テープを作成し，多くの人に分け与える。内容は，自身をいかに成長させるか，両親の恩を知る，善悪の違いを知ること等。 6)小さな庫裡， 2 棟を建てた以外に，寺の建築はない。村人がしてくれたことで十分であり，木々も植えてくれた。現在は資金もなく，特に援助してくれる人もいないので，考えてはいても実行できないでいるが，この森を子供や孫たちのために元のように復元したいと考える。
[特技] 話すこと。人に説いて感化すること。
[仏教の教え] 瞑想法として，座って，Phut-Tho と唱え，呼吸を整え，個人ごとに休息をとる。
　五戒を守り，座ることが信仰の要諦である。
[開発の問題] 気が重い。村人がいうには，Waram 寺から疎遠になり，寺を離れるもの，寺に行きたくないものが増えている(櫻井註：住職と村人の相性か？)。もう一つは，植林の計画を進めるにあたって手助けしてくれるものがいないことである。
[支援者] 村人と，村の小学校の校長。
[将来計画] この修行場の整備。ため池を作り，そこに魚を放つ。ソンクラーン，ローイカトン，その他東北地方の年中行事を活発化させる。境内に道を造る。
　信仰。読経は完全ではない。村人や若者に，土日や平日ここに来て行をするように導きたい。

30
[名前] Phim Paphassaro
[出身] Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 6 班 Nongphai 村
[寺院住所] Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 Ban Nongphongam 寺　マハーニカーイ
[僧位] なし
[年齢] 58
[安居年] 10
[学歴] 小学 4 年
[仏教学習] 仏教学 1 級
[寺院内地位] 住職
[僧団内地位] なし。
[生育歴] Nongphai 村に生まれ，Phongam 寺で出家した。安居は Ban Nongphongam 寺で過ごし，そのままずっといる。仏教学 1 級は Phongam 寺で取得した。
　出家する前は，家族があり，Dan 村にいる。出家した理由は子供達がみな成長したからである。
[寺院] 僧侶 2 名のみ。

［開発内容］ 1）山門，火葬台，僧堂の補修。 2）2540 年 10 月から就学前児童の保育所開設。 3）村人による村の開発を助ける。出家する前は村落衛生ボランティアをやっていた。 4） 村人への説法。仏日には 10 人を超える村人が寺に籠もりに来る。
［特技］説法のみ。
［仏教の教え］仏法に関わることを，少しずつ話を変えて教える。
［開発の問題］なし。
［支援者］村人。開発自衛村落の研修センター等。
［将来計画］僧堂をコンクリート製のものに改築したい。

31
［名前］Son Mahayano
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 8 班 Ratsamran 村
［寺 院 住 所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Khoksomboon 区 Ratsamran 村 Ratbamrung 寺 マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］64
［安居年］ 3
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］出家する前は農業に従事し，2522-2536 年まで村長を務めていた。村長を退職したので，出家し， 3 年目である。家族は村にいる。出家した理由は前立腺肥大で小用が足せなくなっていたが，治った。願をかけてあったので，御礼に出家した。
（この寺は，住職は村長であった頃からあり，2517 年開基といわれている。）
［寺院］僧侶 2 名のみ。
［開発内容］ 1） 村長の頃から，庫裡の建築は進めていた。説法所の改築。鐘楼，トイレ，山門の建築。僧の水浴場の建築。 2） 仏日ごとの説法。村人は 20 人近く，寺に籠もりに来る。 3）住職は村長をやっていたこともあり，村を積極的に歩いて，親族の所にいったり，バンコクで働いている親族を持つもののところで，年中行事の際にタンブンするよう働きかけ，開発予算を集めてきたりする。
［特技］建築など。昔，大工もやっていたので。
［仏教の教え］家族を大切する事，村を発展させ，環境を守ることなど。
［開発の問題］少しはある。寺と村人の関係はうまくいっている。しかし，若い衆がささいなことで諍いをはじめる。
［支援者］村人のみ。

［将来計画］庫裡の建築。学校の支援。
［その他］村の経済状態では十分に食べていけない。しかし，田を作り始めると食べることもできるようになるだろう。その間，村人は，機織りや編み物などをしてしのぐ。若者であれば，バンコクか他県に稼ぎに行っている。

32
［名前］Boonma Yasaintharo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 7 班 Jaotha 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 7 班 Jaotha 村 Sawangkhongkhajang-jom 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］71
［安居年］3
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］なし
［寺院内地位］住職代理
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Jaotha 村に出生したが，Sakonnakhon 県で所帯をもち，農業に従事した。34 歳の時に 2 年間出家したことがある。今回の出家は妻が亡くなった後，子供達はもう成長し，それぞれに家族を持っていることから，子供達に出家を勧められてそれにしたがったものである。子供や孫達が寺に来る。
［寺院］僧侶 2 名のみ。
［開発内容］境内の清掃。僧堂の改築。村人の仕事の手助け。若干の寄付等。安居期間中は，10-20 名の村人が寺に籠もりに来る。
［特技］なし。
［仏教の教え］特段なし。村人は年老いて説法を聞きに来ることもできなくなっているので，寺の日常的なことは住職代理のこの僧が行っているのみ。
［開発の問題］なし。
［支援者］村人。
［将来計画］僧堂の修繕がまだ済んでいない。

33
［名前］Phromrangsribourirak（俗名 Chingchai）
［出身］Kalasin 県 Namon 郡
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 6 班 Thamai 村 Phromrangsri 森の寺　タンマユット

［僧位］師僧
［年齢］40
［安居年］15
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］区僧団長
［生育歴］Namon 郡にて出生。しかし，家族がこの村に来て，ここで自分は成長した。日雇い等の労働仕事に従事していた。出家の理由は，父親が亡くなったので，報恩のためと，頭陀行をしてみたいと思ったからである。自分の友人達や師が頭陀行で各地へ行っているのを見て自分もやりたくなった。森へ行ってみると，そこにいたくなった。それで出家し，現在に至っている。北タイを巡り歩き，2518-2536 年まで，tak 県 Maesort 郡 Thaminthanin 寺にいた。祠に仏像を祀ってから，これをマハーニカーイの僧侶に管理してもらう手はずを整えた後，この村に戻ってきて 5 年目である。
［寺院］僧侶 6 名，沙弥 1 名。
［開発内容］ 1) 寺の業務としては，毎朝の托鉢，寺の清掃・管理　2) 森を囲む塀の建築。 3) 村人に瞑想法，仏教の指導。安居の期間は寺で指導。　4) 村の子供達に昼食を学校で出すことに資金提供。　5) 3 年ほど前から子供達に仏教学 3 級から 1 級の内容を講義する学校を設ける。100 名は参加したろう。　6)就学前児童の託児施設開所の計画はあったが，子供数が少ないなど，幾つかの問題があり，開設には至っていない。　7) Thaphlaung 村 1 班と 15 班にある小学校，Thamai 村の小学校で建築等があった時に寄付をした。また，さらに建築などする場合には何度も寄付をしている。
［特技］調合した油，聖水，呪文等で骨接ぎをやる。薬草医の経験もある。腫瘍，結石，肺病，生理不順などを治す。患者はきれることなく来るので，薬が底をつくこともある。それで，資金があるときに買い置きをしている。境内には 10 種類ほど栽培しているが，多くは外で買っているので。
［仏教の教え］五戒と八戒の遵守。
［開発の問題］ある。仕事をやっている際に，委員会がまとまらない。そのこと自体はそう大きな問題ではないが，委員会が準備不足であることの方が問題である。また，委員会管轄の仕事があったとして，一番頭を悩ませるのが僧侶である。つまり，何をやったとしても，一般の人は意見が分かれる場合がある。しかし，僧侶は中道を行かなければならない。
［支援者］この村では村人が貧しいので，あまり寺のことを手伝うことができない。それで，他県から，或いは，バンコクのもので助けてくれるものがある。
［将来計画］寺院の整備。村人を助けることにもなる。なぜなら，寺は村の一部であるから，寺の開発は村の開発でもある。

34
［名前］Sunthornjariyapirak
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 Maud-ae 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 2 班 Maud-ae 村 Maud-ae 寺　マハーニカーイ
［僧位］師僧
［年齢］58
［安居年］38
［学歴］小学校 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］2539 年より戒和尚
［生育歴］（村の寺に関して実感のこもった語りが聞かれた。）Maud-ae 村に出生。この村は，昔は Dongling 区にあったが，今は Jaotha 区になっている。出家前は農業に従事し，父母を手伝っていた。2502 年 20 歳の時に出家した。Kalasin 県，Phuphan 山地，Sakhonnakhon 県，Rayong 県 Glang 郡等を迷走修行のために頭陀行して回った。
［寺院］僧侶 5 名，沙弥なし。
［開発内容］ 1) 寺院内の学校で，パーリ語をのぞく学習分野を教える。年間 20-30 人ほどの学生を 3 人の僧侶で教える。宗教局からの年間 1000 バーツの経費支給と村人の支援でやっている。（昔は 500 バーツだけだった。）教授料は， 3 名の僧侶で分けている。これ以外に資金はない。それで教材にも事欠くありさまだ。それで，沙弥や小僧同士に協力して学ばせている。 2) 山門の建設であるが，まだ未完成。 3) Thaplaung-Maud-ae 小学校に年間 500 バーツの寄付を 2 年前から行う。また，Kamalasai 郡市街地の小学校にも寄付をしている。 4 ）僧堂改築。庫裡，布薩堂の建築。 5 ）寺の境内をめぐる塀建築。 6 ）2539 年に鐘楼の建築。
［特技］聖水などにより，病人を治す。
［仏教の教え］仏法の重要な部分，布施，持戒，慈悲，信仰，四聖諦を守ること。
［開発の問題］多少ある。交通手段が不便である。足がない。仕事はしなければいけないときはどうしてもやらなければならないのだが，車を探すことが先決である。村人の車を借りなければならないので，遅れることがしばしば。村人は私が来るのを気長に待っていなければならない。
［支援者］村人。
［将来計画］村人を助けたい。しかし，先立つものがない。村人もなんとか生活しているが貧しい。仕事がない。これ以外には，寺院内の建築を整備したい。
［その他］村の経済状態はあまり良くない。寺の資金も同じようなものだ。今年日照りで不作であれば，寺に喜捨する額も減り，寺は大変になる。もし天候に恵まれれば，あがりも

よくなる。田舎の寺というのは殆どこんなもんだ。町の中にある大きな寺のように宗教局から多額の予算をもらえるようなわけにはいかない。

要するに，寺は大変だ。なぜなら，村人が大変だからだ。支援する資金も不足している。しかし，ものは高いし，人を雇うにも労賃がかさむ。バンコクから黄衣奉献祭に来てくれれば，支援の金が1回で何万バーツにもなるが，この村で今年やったガチン祭では5000バーツしか集まらなかった。

35
［名前］Khoon Thitametho
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 Dongling 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 11 班 Dongling 村 Sreekhanaram　Dongling 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］72
［安居年］5
［学歴］小学校4年
［仏教学習］仏教学3級を学習中
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Dongling 村に出生。出家前は農業に従事し，家族があった。また，村で2520年の467期虎の子隊（ボーイスカウト）の訓練を受けたことがある。また，2530年に119期の薬草の講習も受けた。これは国王がお考えになった森林の薬草計画の一環であり，3度ほど講習を受けて課程を終えた。

これ以外に，Mhophee（神霊治療医）の術も習った。2540年に Roi-et 県の Kasetwisai 郡の師匠に習ったが，この人はもう亡くなった。ちょうど，この年に，飲酒などの煩悩を断ち切るために出家した。ほどなく，出家し，二度目の出家が2535年である。

神霊治療を習ったのは，一族所有の田に凶暴な精霊が取り憑いていたからである。親族には病気やけがをし，命を落とすものが多かった。親族は12人いたが，取り憑かれたものは皆命を落とした。結婚した妻で亡くなったものも多い。嫁で亡くなったものは1名。その後再婚したが。要するに，一族で何ともなかったのはこの和尚と現在この村で暮らしている和尚の妻だけであるという。恐るべき話なので，それで，この悪霊から身を守る術を学びに各地を歩いてみたのである。
［寺院］僧侶4名。沙弥なし。
［開発内容］1）様々な病気にかかった人に，薬草治療を施す。　2）薬草治療の識者として，この村では何度も講演・指導を行う。　3）境内に薬草を栽培。薬草の種子の中には山から取ってきたものもある。薬草治療の資格も持っているし，これは生涯有効なものだ。

薬草は採取可能であるから，金を払って購入する必要はない。かかる費用はこちらから出かけるときの交通費だけで，最高で 800 バーツくらいか。現在，５人ほどこの治療法を教えてくれてと通っているものがいる。 4）神霊治療医でもある。精霊が憑依した患者の身体から精霊を追い出す。最初は，精霊に捧げるものを用意し，呪文を唱え，精霊と問答をする。最後に，精霊を患者の身体から追い出す。現在，この方法を学びに来ているものは極めて多い。 5）鐘楼，僧堂，火葬台の建築。 6）境内を囲む塀の建設。まだ，完了していない。 7）仏日ごとの説法。10-20 名の村人が籠もりに来る。この村は小さいので，この位であり，殆どが女性である。
［特技］薬草医。神霊治療医。
［仏教の教え］道徳を説く。貪欲を捨て，耽溺しない。煩悩をたつ。自信過剰になるなとか。村人にはアングラの宝くじを当てるのがうまいと評判の神霊治療医に行くことは勧めない。
［開発の問題］ない。村人は協力しあい，徳もある。
［支援者］村人のふだんの喜捨や，彼等の親族がバンコクから黄衣奉献祭等で来て，喜捨するくらい。
［将来計画］僧堂の建設。寺院の塀の建設の完了。

36
［名前］Saman Anantho
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 10 班 Jod 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 10 班 Jod 村 Ban Jod 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］37
［安居年］17
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級　パリエン 4 段
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Jod 村で出生。小学校を卒業後，両親を手伝って農業に従事。沙弥にはならなかった。20 歳で慣習に従い，出家。最初は，これほど長く出家していようとは考えてもいなかった。Nongkhai 県の寺で最初の安居を過ごし，それから Bureeram 県の Glangnangrong 寺に行った。それから 2530 年から 6 年間そこで安居を過ごし，2539 年に今の寺に戻ってきた。
［寺院］僧侶 5 名，沙弥 2 名。
［開発内容］私自身はここでまだ安居を過ごしていないので，特段やったことはない。2539

年に，先代の住職，Suk Supanno 師が亡くなられてから，私が来たので。 1）火葬の間，休む場所の設置。 2）10 歳から 41 歳くらいまでの 140 名に仏法を講義した。しかし，これから試験を受けに行かせるものは 69 名ほどであり，最近は小学生で学ぶものが少なくなっている。殆どが中学に進学するようになったので。 3）仏日ごとの説法。寺に籠もりに来るものは，40-45 名ほど。
［特技］装飾文字を書いたりすること。
［仏教の教え］五戒の遵守と在家としての徳をもつこと。
［開発の問題］なし。寺と村，学校の協力関係はしっかりしている。村は寺のことを世話してくれる。町にある寺は自分たちでやるしかないのであるが，この点が大きく違う。
［支援者］村人とバンコクに出ていった親族。黄衣奉献祭，ガチン祭，ソンクラーンの時に彼等は帰ってくる。
［将来計画］2524 年に建てられた庫裡を改築すること。

37
［名前］Seesai Yanthilo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 9 班 Nongbua 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 9 班 Nongbua 村 Pathumkesornnongbua 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］25
［安居年］ 6
［学歴］中学 3 年
［仏教学習］仏教学 2 級
［寺院内地位］住職代理
［僧団内地位］区僧団長秘書
［開発開始年］2535
［生育歴］無回答。
［開発内容］ 1）2539 年に鐘楼の建設。山門の建設。 2）村人の相談に乗る。 3）僧堂と布薩堂の建築中。 4）仏日ごとの説法。60 名ほどが寺に籠もりに来る。
［寺院］ 9 名の僧侶と 3 名の沙弥。
［特技］なし。
［仏教の教え］人生において大切なこと。家族の大切さ。その他，仏法で身近な話をする。
［開発の問題］一つもない。お寺の資金を銀行に預けるときでも，事業をする際資金不足になったときも，村人が助けてくれる。
［支援者］村人及び，バンコク等で働いている彼等の親族。
［将来計画］寺の開発。村には男達や若者達の自助グループが既にある。

38
［名前］Kwanchai Kantaseelo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 8 班 Thaglang 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 3 班 Thasamakkhee 村 Banmaisamakkhee 寺（寺院用地未下賜寺）　マハーニカーイ
［僧位］なし　［年齢］49　［安居年］6
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級　パリエン 2 段
［寺院内地位］住職代理
［僧団内地位］なし
［生育歴］Thaglang 村に出生。現在この村は Thasamakkhee となっている。寺の所在地に同じ。出家前は小商いをやっており，家族もいた。沙弥は 4 年やり，出家して比丘となってからは 3 年である。出家した理由は世俗の生活に飽き飽きしたことである。それでこの世の生活を諦め，仏法に身を委ねることにした。

頭陀行で最も遠くへ出かけたのは，ミャンマーであり，山に登り，森に分け入った。その他，タイの国内は遠くへはバスを使い，殆どの地方を歩いた。

現在の寺の敷地が，元々古い寺の跡地であったかどうかは分からない。掘ってみた人の話によると仏像を収めた地下室があったという。相当に古く，チャンパーサック時代（2321-2489）のものであるという。
［寺院］僧侶 4 名。サクナックソン（寺院用地が未下賜の寺であるので）住職代理である。
［開発内容］1）寺の周囲の塀，僧堂，鐘楼等の建設。　2）Kamalasai 郡の学校に奨学資金の寄付。時にはこちらから持っていったり，学校が寄付を請い来たりする。　3）村人に仏法の指導。仏日ごとに教え諭す。40 人ほどの村人が寺に籠もりに来る。　4）庫裡は Roi-et 県から来た信者により建てられた。
［特技］病者快癒の油作成，長寿祈願の儀礼ができる。村人の求めに応じて宝くじを当てる。薬草医。薬草はよそから買い求める。神霊治療。占い。吉凶の運勢を見る。テートスィアン。普通の説法もできる。

僧侶から治療や教えを受けるものが非常に多い。月の中旬から月末にかけて。宝くじが売り出される時期で一山当てようとするものが来る。完全な当たりくじや確実なくじの番号などを知りたがる。これらは連れだって，或いは人づてに聞いてくる。

こうした術を学ぶために信者になるものも多いが，僧侶は何を学びたいのかとその度に尋ねることにしている。
［仏教の教え］戒の実践。瞑想，知恵。
［開発の問題］なし。村人は僧侶の言うことをよく聞き，喜捨をしによく寺に来る。
［支援者］村人。会社，商店など。
［将来計画］貧しいものの支援。或いは，地域の知識の中心に寺をしたい。或いは観光名所

などに。仏像や仏塔等を作って。また，ジャータカ物語に沿った仏像の建築などで。

39
［名前］Phrom Narintho
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 5 班 Nongmaglau 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 5 班 Nongmaglau 村 Maisamakkheetham 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］68
［安居年］25
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Nongmaglau 村に出生。農業に従事し，家族があり，息子 1 人がいた。妻の死後，出家を決意した。その後，もう一度世俗に戻りたいと思ったことはない。安居は，Nongkhai 県 Bungkan 寺で 15 年を過ごした。
［寺院］僧侶 3 名，沙弥 2 名。
［開発内容］1）僧堂の一棟を建築しているが未完成部分あり。300 万バーツの総費用であるが，現在，170 万バーツをつかったところである。庫裡を二棟，さらに一棟を建築中。　2）村人を寺と村の開発に導く。仏日には村人が 12 名ほど寺に籠もりにくる。　3）学校に奨学金等出したことはまだない。
［特技］病のものに生気を与える聖水を作ること。相談事に乗ること。
［仏教の教え］道徳と開発をどちらも大切にと説く。
［開発の問題］なし。村人が協力してくれる。
［支援者］村人のみ。この寺はまだ寺院用地を下賜されていない寺であるので，宗教局から経費を支給されていない。
［将来計画］寺院の建築を終えたら，道路の整備，村に電気を引くことなど。

40
［名前］Khamsri Paphassaro
［出身］Roi-et 県市内 Dindam 区 Kewchi 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 12 班 Maud-ae 村 Ban Maud-ae 森の寺道場　マハーニカーイ
［僧位］samuha
［年齢］62

［安居年］ 9
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職代理
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Kewchi 村に出生。農業に従事。時に小商いや車の運転手をやる。Chatchai 首相が退任したときに出家し，以来，僧侶を続けている。この寺には 2534 年より居る。
　現住職が存命しているので，自分はまだサンガ内の役職にはついていない。
［寺院］僧侶 2 名，沙弥なし。
［開発内容］ 1 ）村のものと協力して，寺院境内を囲む塀を建築。 2 ）在家のものを仏法に導く。仏日には 20-30 人の村人が寺に来る。祭典の時 40-50 人は来る。ここは墓地があったところに作られた道場である。他の寺との協力関係を維持。 3)村人，学生達，全ての善人に仏法を説く。タンマトゥート（仏法の使節）の使者として説法に行く。また，村人から招請があれば，どこにでも出かけて行くが，いつもはここに居る。
［特技］テートスィアン。瞑想法の指導。聖水，膏薬の作成。これらは，病気やけがで苦しんでいるものたちのために行う。
［仏教の教え］道徳。文化，伝統の学習。五戒の遵守。報恩。欲，進，念，慧。
　現代を知る。価値を教える。 8 万巻もの経典があるので，教えることは無数にある。それで，大事なところだけを選んで教えているが，持戒，瞑想，知恵が最も大事な部分である。
［開発の問題］なし。村人達は僧侶の言うことをよく聞いてくれ，反論するものはいない。
［支援者］村人。寺は村人に頼んで労力を提供してもらうときもあるし，お金を出して仕事としてやってもらうこともある。何でも可能であるが，道徳と価値を重視したものであるべき。
［将来計画］子供達に寺に来て仏法を聞くように促したい。生徒達に仏教学，一般社会のことを学ばせ，道徳的価値や宗教の儀式を教えたい。一般の人達を支援する。学費の軽減。正しい行いで仕事になるようなものを作りあげることなど。

41
［名前］Pratheepjantharaphorn
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 Tha Maud-ae 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 1 班 Tha Maud-ae 村 Ban Thaphlaung 寺
［僧位］師僧
［年齢］41
［安居年］18

［学歴］中等学校 6 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Tha Maud-ae 村に生まれる。出家前に，バンコクでサムローの運転手をしていた。出家したのは仏教の信仰による。出家により善果をえた。Ban Maud-ae 寺で出家し，Nakhornsawan 県で開催された 29 回目の布教師研修会にいったりもした。また，Nakhornpathom 県で瞑想法の修行をしたこともある。

村人達は田舎に住んでいるが，子供が病んだときなどどうしてよいかわからず，不憫であった。この世に生まれたものは同じ人間であるはずなのに差がある。そこで，村人達を助けたいと思った。
［寺院］僧侶 5 名，沙弥 2 名。
［開発内容］ 1 ）庫裡，鐘楼，水道の建設。 2 ）この地域にある学校外教育の施設があまりに古いので， 4 つの扇風機と 3000 バーツを寄付した。 3 ）近くの学校に奨学資金の提供。1600 バーツの自転車を二台寄付。 4 ）仏日ごとの説法。 5 ）病院へ患者を運ぶ前に，地域で応急処置をするやり方を学び，そのセンターの代表をしている。
［特技］説法。瞑想法指導。儀式の執行など。
［仏教の教え］四無量天（慈・悲・喜・捨）を強調する。
［開発の問題］村人を支援しようとすれば，その予算の手当などで大変になる。この寺が町から離れていることである。これは村人も同じ。タンブンで出かけるときも，寺の車がないので，毎度，車の手配から始めなければならず，時間がかかる。
［支援者］民間の会社などはない。寺で何か計画をしていたとしても，それが分からなければ支援を申し出るものはいない。しかし，建物を建築するような場合，それが外から見ていて分かれば，支援を申し出るものが出てくる。通常は，村人，信心の篤い人達の喜捨しかない。
［将来計画］就学前児童の託児施設の開所。昼食の給食。これらを運営するために組織を作るなど。土日に若い者達のために仏法を教えることなど。

42
［名前］Udorn Janthasaro
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 Gaonoi 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 Gaonoi 村 Ban　Gaonoi 寺　マハーニカーイ
［僧位］plat（副僧団長）
［年齢］34
［安居年］13

［学歴］小学 6 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］戒和尚の介添え
［生育歴］Gaonoi 村に出生。沙弥になったことはない。農業に従事。出家の理由は慣習に従った。その後，村人は自分に僧侶のままでいてほしいと願った。たぶん，このまま僧侶を続けるだろうが，絶対ということは言えない。将来，還俗してもいい。仏法は様々なところで学んだ。しかし，その学習の大部分は，この寺でなしたものである。
［寺院］僧侶 4 名，沙弥なし。
［開発内容］ 1 ）道路の修復。その他，村人に慣習的な年中行事を指導。 2 ）仏法の研修。仏日ごとに説法。50 名は村人が寺に籠もりに来る。重要な行事があるとき 200 名は来るであろう。 3 ）2541 年より，就学前児童託児施設の開所を予定。 4 ）現在，300 万バーツの総予算で僧堂建設を始めている。
［特技］病気治療はできない。しかし，時々は膏薬をあげたりすることはできる。それを職業にするほどのレベルではない。説法はできるが，テートスィアンはできない。
［仏教の教え］一致団結，慈悲とか，そういった教えである。
［開発の問題］なし。仮にあったとしても小さいものであり，言って聞かせれば解消可能である。
［支援者］会社などもしょっちゅう顔を出すのだが，実際に支援してくれるところは少ない。宗教局からの給付金か，村人の喜捨である。
［将来計画］考えはいろいろあるが，実際にやるだけの予算がない。あれば，すぐにでもやる。あえて，挙げれば，貧しいもの，子供，年寄りなどを世話するセンターのようなものを作りたい。僧堂の建設が終わったら，もう一棟庫裡を建てたい。
［その他］Kalasin の県都や Kamalasai 郡の中心地と比べれば，ここは農民ばかりで，階層的には中程度であろう。この村は年に二度稲作ができる。 7 月と 1 月に稲刈りをする。
　かつて二期作はできなかったが，2528 年に用水路が完成してできるようになった。米はホームマリー種がほとんどである。しかし，これ以外に仕事になるような産業もないので，農業だけである。

43
［名前］Janthi Kawitsaro
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 Thaglang 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Jaotha 区 Thaglang 村 Thaglang 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］63

［安居年］16
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］区僧団長，戒和尚
［生育歴］Thaglang 村に出生。農業や他県でトラック運転手，バンコクでバス運転手等に従事。出家前に結婚したことはない。出家した理由は叔父（父の弟）の追善供養である。Kalasin 県市内の Taiphokam 寺で出家した。
［寺院］僧侶 10 名
［開発内容］ 1 ）布薩堂，火葬台，山門，庫裡 3 棟，寺の境内にめぐらした塀等の建設。 2 ）植林など。 3 ）学校に教育資金を交付など。 4 ）仏日ごとの説法。安居の時期には，10 人程度の村人が寺に籠もりに来る。 5 ）古美術品の収集等。

Jaotha の和尚は Sema（布薩堂の境界を示す丸石）に書かれている。Chi 川の中をタワラワディー時代の美術品のように漂い浮かんでいた Jaotha 和尚の Sema に村人が出くわしたという。村人は和尚の Sema を聖なるものとあがめている。もし，許可をとらずにその写真をとろうとすると，それは現像しても写っていないか，或いは，シャッターそのものがおりない。聖遺物の一種。
［特技］聖水の作成。
［仏教の教え］タンブン，五戒，八戒の遵守。
［開発の問題］なし。
［支援者］村人のみ。或いはバンコクで働いている村の出身者など。行政等からの支援はない。
［将来計画］寺の境内にめぐらした塀の完成を目指す。
［その他］村の経済状態はまずまずであろう。しかし，中部タイほど豊かではない。稲作について比べてみると，ここでは年に 2 回収穫できるが，以前と比べて農業に投資が必要になり，収穫物を売っても収益があがらないこともある。稲刈りの出面賃もあがっている。120-150 バーツの日当を出さなければならない。しかも食事をつけてである。今では，手間替え，結いの伝統はなくなったろう。あってもわずかではないか。このような慣習を残したいものだ。なくなった理由は，経済状態が悪くない，皆，自分たちの生活を守るために収入を得ることに精一杯で，中には出稼ぎにいって人手がなくなっているからである。

これ以外にも，親族は一つの竈，飲み食いは皆一緒といった習慣も廃れてきている。経済状態が悪くなっているからだろう。バンコクに出稼ぎに行って，戻ってきては何もせずに家でボーとしているものも多い。なぜなら，村の生活において，食事はあるし，金を出して食料を求めることもない。機織りをして反物を売ることもできる。村では金がかからないので生活ができる。海外に出稼ぎに行っているものはいない。

44
［名前］Wijansathukit
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpaen 区 Huanonploi 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 12 班 Kae 村 Thipphawan Ban Gae 森の寺　タンマユット
［僧位］師僧
［年齢］73
［安居年］21
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］区僧団長
［生育歴］Huanonploi 村に出生。農業に従事。富裕な農家だった。妻が死んだ後，出家を決意。一人娘は結婚したがまだ子供がいない。娘は事業をやっており，大きなコンドミニアムを作って家賃収入を得ている。自分が持っていた田圃は，土地なし農民に分けてやった。小作料とか御礼とか受け取っていない。

出家後は仏法を学び，タンマユット派として布教活動を行ってきた。Thammanuwat 師を戒和尚，Mongkhon 師が導師，maa 師が教戒師である。2521 年よりこの寺にいる。

皆のために，また，国家のために貴重な古美術，資料を残そうと考えた。また，村人も住職の意を察して，そのようなものがあれば寺に持ってくる。
［寺院］僧侶 4 名，沙弥 1 名。
［開発内容］ 1) 寺の開発。説法庁，僧堂，鐘楼，布薩堂，倉庫，火葬台などの建設。 2) 4 千本の植樹。もし，子供や孫のために植樹をしておかなければ，必ずやこの地域は干害を受けるだろう。 3) 毎年，学校の教育資金を配布。地域内の貧しい学校に対して。 4) 貧しいものに対する支援は毎日のこと。お金，衣類，寝具，その他の家財道具をあげる。 5) 2530 年，Kalasin 県 Khongchai 分郡 Lamchi 区 Thaieam 村に Thaieam 森の寺を建設。 6) 2537 年，Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 Saadsomsri 村に Saadsomsri 森の寺を建設。 7) 仏日ごとに瞑想法の指導。師は毎日実践。安居入り，明けの仏日には 60-70 人ほどの村人が説法を聞きに寺に来る。これが村の寺のように安居入りの時だけ村人が集まるところと違う所である。その他，近場の人達は年中寺に来る。 8) 沙弥の指導と教育資金援助。父母が子供を連れて，寺にやってくるが，師は子供の資質を見定めて，見込みのありそうな子は徹底して面倒を見て，高い学歴や教育を施そうとしている。

現在，古美術品等を収蔵する仏塔を建設中。仏塔の形はタワラワディー時代を模したもの。収集品はタワラワディー時代，アユタヤー時代，近代のものなど。種類は，仏像，Sema 石，武器，スコータイ時代の焼き物，民具，王様からの下賜品，狩猟のわな，年代物の家具，高価な装身具，古書等。師はこれらを維持･管理して，見学してもらうようにしている。師

はこうしたものの収集と目利きに優れているので，いろんな人が持ち込んでくるのである。

（以下は在家信徒の談）師は美術品と生活資料収集を国の未来のために行っている。これらを私的利益のために所蔵したり，売り買いしたりするものは本来収集の権利がない。若者や子供達の学習のためにやり，現代の美術や学問をやる人々にも貢献する。仏塔が完成したら，これらのものを展示し，本当に興味関心があるものだけに見せる。また，展示品には説明文をつけ，案内係などもおこう。来館者を歓迎する。

過去から現代までの歴史と美術の価値を学習する。師は有識者を訪ねていろいろと歩き回っているので，普通，寺に来てもなかなか会えない。師は歴史に関わる質問をされても正確に答えることができる。年中，勉強しているからである。

寺の縁起，ウィエンチャンの王朝年代記，ラタナコーシン朝年代記，その他の都市国家の年代記（Khon Kaen，Udonthanee，Kalasin），を記したいと考えたことがある。しかし，これらは考案中であり，まだ，具体的な執筆計画はない。自伝も未だ書いていないし。出家してからのこと，寺の開発のことなど。それらは自分から書くこともないだろう。自分の信者が記すであろうから。

宗教局に資金援助の要請をしたことはない。村に奉加帳を回すこともしない。村人が，ガチン祭や，黄衣奉献祭などのタンブンで寄進した金が殆どである。篤信のものもいる。しかし，一度も寄進を請うたことはない。師自身の人柄と功徳の故に，人が寄進するわけである。師はそれを受け入れるだけ。

［特技］師自身は黙して語らないが，師自身の中に聖性がある。行いが正しい。

Kalasin 県の副知事にせよ，或いは Phathalung 県の知事にせよ，師と知り合い程なくして，官職を得ている。

［仏教の教え］子や孫に仏法を教えるために法の大事な部分を分かりやすく説く。最初は，布施，戒，信仰（布施，持戒，修習），次に，行。行いがよく，正しい言葉を使い，信仰を持つものは自然に分かることであり，特段学習するまでもないことである。

［開発の問題］なし。

［支援者］師に帰依するものたち。

［将来計画］仏塔や火葬前に遺体を安置する棟の建設が終わったら，三蔵を収蔵する宝物館を作る。

［その他］僧侶は国民の帰依の対象である。また，仏法に従って行いをするものである。もし，規律がゆるめば，行いは悪くなる。僧侶は社会を助ける役割を持つ。人々を導く法を説く。これこそ，僧侶が貢献できることであり，社会を法で正していくことである。

45

［名前］Tha Rattanayano

［出身］Udonthanee 県 tanrieng 村

［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 Nongtu 村 Phrasaikhantitham 森の寺

タンマユット
［僧位］なし
［年齢］71
［安居年］ 9
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Udonthanee 県 Tanrieng 村に出生。この寺に移ってきてから 2 安居過ごしている。村人はそれなりに寺に来ているが，寺の世話人であることが多い。住職は行いが正しい人であるので，信仰してくるものがいる。
　聞き取りは，住職ではなく，Bunma Sonset 氏（寺の世話人）に行った。
［寺院］Samnaksong（準寺院）僧侶 1 名のみ
［開発内容］村人，世話人が境内に植樹や花壇を作ってくれたりする。それまでここには木が殆どなかった。井戸をつくる。台所，僧堂の建築，未完成。タンマユット派の仏事を行う。説法。特に安居入りから明けまでの期間は毎日行う。8-20 名の村人が仏日には寺に籠もりに来る。年中行事の時は若者も来る。住職は村人を導く指導者と考えられている。信心深いものが喜捨をしてくれる。
［特技］瞑想法の指導と説法。
［仏教の教え］持戒，布施，悪徳，福運，思念の集中（瞑想法）などを教える。
［開発の問題］あまりない。
［支援者］郡の役人等，信仰の篤い村人など。
［将来計画］僧堂の完成，庫裡の建築，植樹。
［その他］村人は程々の暮らしをしている。この村には灌漑用水路が通っているので，米が作れる。

46
［名前］Sang Tittapunyo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 Nongtu 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 Nongtu 村 Sangudomprasittharam 寺
マハーニカーイ
［僧位］なし
［年齢］60
［安居年］ 5
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 2 級

［寺院内地位］住職代理
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Nongtu 村にて出生。Dongling 村で家族を持つ。農業に従事した。出家した理由は仏教への信仰である。
［寺院］僧侶 4 名のみ。
［開発内容］説法庁の建築。300 万バーツの予算。200 万バーツかけて建築したところで予算切れとなり，工事がストップしている。資金は村人の寄付である。村人に宗教と教育の指導を行う。仏日ごとの説法。20-25 人の村人が寺に籠もりに来る。
［特技］村人を仏教に導く以外の特技はない。
［仏教の教え］行，善行の強調。
［開発の問題］あまりない。村人がよく寺に協力してくれる。
［支援者］村人のみ。
［将来計画］ない。村人を宗教と教育に導く以外のことは。

47
［名前］Boonmi Theerapanyo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 Nonmakham 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 Nonmakham 村 Sawangarunnonmakham 寺
［僧位］なし。
［年齢］70
［安居年］6
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］無回答。
［寺院内地位］住職代理
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Nonmakham 村に出生。農業に従事し，副村長を 13 年やっていた。20 歳の時に最初に出家し，2 年ほど僧侶であった。仏教学 3 級を取った。しかし，その後この認証をなくしてしまった。再び出家して，仏教学を学んだがもう忘れてしまっている。
　先代の住職，Bun Supanno 師が亡くなってから，住職代理を務めている。しかし，僧団のほうからまだ住職に任ずる連絡が来ていない。
［寺院］僧侶 1 名，沙弥 1 名。
［開発内容］村人をタンブンや年中行事を行うように導く。東北タイのヒット 12 の行事であるが，ロケット祭りだけはこの村ではやったことがない。
［特技］なし。村人がよく協力してくれる。2，3 年前は村長選をめぐって村を 2 つにわった対立構造があったが，今はだいぶよくなった。

［仏教の教え］無回答。
［開発の問題］無回答。
［支援者］村人。宗教局からの資金援助もない。
［将来計画］宗教局から助成金をもらって様々なことをしたい。他村の村人からも寄付をえて布薩堂建設に取りかかりたい。2541 年の 1 月か 2 月には工事に取りかかれるだろう。たぶん，予定より長くかかるだろう。村人達はあまりお金の余裕がないので寄進の額も多くはないだろうから。
［その他］この村は 100 年からの歴史があり，和尚はこの村を開拓した草分けの孫にあたる。和尚の母親が草分けの娘だった。多くの村人が Boa 村から移ってきた。婿入りしたものの中には中部からきたタイ人もいるし，中国系のものもいる。

この村には 64 世帯あり，殆どが農業に従事している。みな，自給自足には足りるが，経営規模も小さく，現金収入をえられるような稼ぎをするレベルではない。一口に言えば貧しい村である。主食用に餅米をつくり，うるち米は出荷する。銘柄は香り米で 14 号か 11 号。村人の世帯収入は年間 1 万バーツに達しない。規模の大きな農家で 2 万バーツ前後である。この村に電気は 2507 年からきた。その後，Boa 村，Lao 村，Kae 村，Polo 村，Songyang 村，Yangtalat 郡へ至る農業用水路が付設された。この村で公務員になったものは，警察官が 1 名，兵士が 1 名である。この村の子供達は，Boa-Nonmakham 村小学校に通うが，雨期は通学に支障が出る。今年は例年より就学児童の数が多いが，それでも 10 名ほどである。

48
［名前］Monthean Theerasaro
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 2 班 Boa 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 2 班 Boa 村 Phangsri Ban Boa 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］30
［安居年］5
［学歴］中等学校 6 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］なし。
［僧団内地位］なし。
［生育歴］この村で出生。出家した理由は，友人が出家するので一緒にと誘われたからである。
［寺院］僧侶 8 名，沙弥 1 名。
［開発内容］1）2527 年より，境内に幼稚園があったが，現在は別の場所にある。寺としては，仏教学の学校を作ろうと考えている。 2）仏日ごとの説法。安居期間中は 60-70 名の

村人が寺にくる。普通は，仏日のみ朝晩村人が来るだけである。
［特技］なし。出家者として心の平安をえるように実践するだけ。要するに，心の中の問題を解決することである。
［仏教の教え］布施。美徳，善行等。
［開発の問題］あるがたいしたことではない。話せばお互いに了解可能なものである。
［支援者］村人のみ。家族ごと 800 バーツくらいの寄進を願っている。この家族というのは，一世帯ではなく，子供や孫夫婦含めての親族単位である。民間企業はないし，宗教局からの支援もない。
［将来計画］仏教を教える学校と就学前児童の託児施設設置であるが，どちらも資金のあてがないので，その任にあたる人や保母を雇えない。

49
［名前］Phong Thammathinno
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 2 班 Boa 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 2 班 Boa 村 Sriphothong 森の寺　マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］59
［安居年］30
［学歴］中等学校 3 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Boa 村で出生。出家前は農業に従事。出家した理由は仏教への信仰からである。Chaiyaphum 県 Kangkhro 郡 Chaisammo 寺で出家した。そこに親族がいたからである。そこで 3 安居を過ごし，同県内の khong 山地内を頭陀行して回った。その後は各地を巡り歩き，この寺では 4 安居，Kasetsamakhom 寺では 2 安居，Kalasin 県 Somdet 郡の Rangsrichatwat 寺で 2 安居，Kamalasai 郡の Lakmuang 区 Ban Noonsawang 寺で 2 安居過ごした後に，最後に，現在の森の寺に居を定め，自分で寺を築いてきたのである。
［寺院］僧侶 1 名。Samnaksong
［開発内容］ 1）火葬台，葬儀参列者休憩所，説法庁，庫裡，便所等の建築。 2）教育資金を出したことはない。中央の僧団の指示に従って，それ以上でも以下でもないやり方をしている。 3）仏日には 18-9 人の村人が説法を聞きに来る。安居期間中は村人が多く来るが，それ以外は仏日のみ。平日は，この寺が村からかなり離れているために，住職は托鉢に出かける。村人がわざわざくるまでもないように。
［特技］聖水をつくることくらいか。

［仏教の教え］布施，持戒，信仰，三福業（布施，持戒，修習）
［開発の問題］なし。
［支援者］村人が来てくれる以外にない。
［将来計画］学校等に教育資金や，昼食の資金などを供与したい。

50
［名前］Yutthana Janthasalo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 Songplaui 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 Songplaui 村 Wiwektham 仏法道場 マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］26
［安居年］ 6
［学歴］小学 6 年
［仏教学習］仏教学 2 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］この村に出生。
［寺院］Samnaksong（準寺院） 2 年前に開所。僧侶 2 名，沙弥 3 名。
［開発内容］説法庁を建設中。基礎工事は完了。Kamalasai 郡僧団長，Chaimongkhon 寺住職の Sophano Phothiwan 師が定礎式を行う。
　瞑想法の研修。村人は修練を行った後，村へ帰る。来るものは 1 度に 10 人ほどである。常時，この道場に籠もりに来るものはいない。
［特技］薬草医，護符作成
［仏教の教え］無回答。
［開発の問題］無回答
［支援者］村人と，同じ系列の僧侶。
［将来計画］将来のことは分からない。状況に合わせてやるまでである。

51
［名前］Khamphrai Katasalo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 7 班 Songplaui 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 7 班 Songplaui 村 Phothaongsongplaui 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］28

［安居年］ 6
［学歴］小学 6 年
［仏教学習］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Songplaui 村に生まれ，出家前は農業に従事していた。出家は慣習に従った。
［寺院］僧侶 2 名のみ。
［開発内容］ 1）資金不足もあり，自分がやった新しい建築はない。 2）僧堂と境内の塀の一部の建築がこれまでなされた。 3）Wiwektham 仏法道場を手伝いに行く。 4）村人にタンブンと慣習を教え，年中行事を行う。 5）仏日ごとに籠もりに来る村人は 20 名ほど。 6）同じ信仰の派で，タンブン等の行事等があった場合は，出張する。 7）サンガに従った行為をなす。研修等も。 8）かつては，寺で薬草を栽培し，薬草サウナなどの療法もやっていたのだが，今はやっていない。 9）村人に働きかけて，境内に植樹を行っている。これは寺で一番大事な事業であり，村人に森を守り，種子や樹木，薬草を維持していくことをとく。これはメリットがあるし，身体にもよいことである。
［特技］なし。
［仏教の教え］村人に，持戒，慣習を守ること，悪癖におぼれて生活を崩さないこと，知恵で生活を改善すること，すべきこと，すべきでないことなどを説いていく。説法の内容は村人がそれぞれに持ち帰るであろう。これは物事の効果を知り，贅沢をせずに本物だけを選んで使いなさいということである。やることに何の益もなければすることもない。自分の状態に満足することも大切である。
［開発の問題］なし
［支援者］村人，篤信のもの。
［将来計画］村人を悪癖から遠ざけること。善行をさせたい。問題が多いのだから。何の問題もないと思いこんでいるとしたら，これは無明の状態にある。その後の生活は苦労が多いであろう。知恵を持たなければならない。無明のままで歩いても目的地に着けないし，迷うばかりである。

こうしたことを Wiwektham 仏法道場の瞑想修行で教えるのである。同じ派の師にもおいでいただき，瞑想法の指導をいただくようにしていきたい。

52
［名前］Khamsing Janthuphamo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 9 班 Nongbua 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 8 班 Noonkawao 村 Sawangdonkaew 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし。

［年齢］70
［安居年］ 8
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Nongbua 村に出生。出家前は農業に従事。子供達がみな大人になり，妻に先立たれたので出家しようと思った。
［寺院］僧侶 1 名のみ。
［開発内容］境内の塀，庫裡の建築。僧堂は今年着工。火葬台がないので，薪で死体を焼いているが，今後，建築したい。
　村人は僧侶を信頼しているので，寺で説法を聞く。雨安居入りには，沙弥達の出家式を行う。朝晩は在家のものや子供達が寺に来る。仏日には 24 人ほどの村人が寺に籠もりに来る。
［特技］なし。
［仏教の教え］子供達に道徳を教える。学問を志させる。悪癖をやめさせる。大人には，寺に来て籠もり，タンブンするようにいう。忙しくて毎日来ることができないというものにはたまにこいという。
［開発の問題］寺に泥棒が入ったのが 2 回ほどある。しかし，警察が犯人を逮捕し，盗まれたものを返させた。今では，寺の周囲に丈夫な塀をめぐらしたので，このような泥棒が入ることはない。
［支援者］村人のみ。
［将来計画］700 万バーツくらいの予算で，僧堂を 1 棟たてない。稲刈りが終わった時期に，宗教局に予算を請求可能であるが，請求してもらえるものやら定かではない。

53
［名前］Sao Santakitto
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 6 班 Jikgam 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 6 班 Jikgam 村 Sawangarom 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］74
［安居年］ 3
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。

［生育歴］Jikgam 村に出生。出家した理由は，安居期間だけでは短いし，子供達も成長し，妻も他界したので，そのまま出家していようと思った。

この村は 70 世帯ほどあり，殆どが農業に従事している。［寺院］僧侶 1 名。

［開発内容］説法庁の建築だが，まだ終わらない。庫裡の建築。火葬台はまだない。

仏日ごとの説法。安居期間は，僧侶や沙弥になるものが多いが，安居明けに殆ど還俗する。

［特技］なし

［仏教の教え］三界経の教え

［開発の問題］なし

［支援者］村人のみ。

［将来計画］山門の建設。

54

［名前］Oonsaa Janthawanno

［出身］Roi-et 県 Caghan 郡 Dongsing 区 14 班 Ploitan 村

［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 Saadsomsrikonoi 村 Saadsomsrikonoi 寺　マハーニカーイ

［僧位］なし。

［年齢］89

［安居年］ 3

［学歴］小学 4 年

［仏教学習］仏教学 2 級

［寺院内地位］住職

［僧団内地位］なし。

［生育歴］Roi-et 県 Caghan 郡 Dongsing 区 14 班 Ploitan 村に出生。出家する前は Kalasin 県 Rongkham 郡 Rongkham 区 Dongkrayom 村小学校に勤務していた。

出家した理由は，年をとって宗教的な行いをしたくなったからである。村人が，この僧侶に，寺に常駐してくれるよう招請してきた。

この村は，実際は 100 年近くの歴史を持つ村であるが，規模が小さい。小さな丘であるため，耕地の拡大もできない。

［寺院］Pakchong（準寺院） 僧侶 2 名。

この僧の居宅は 4 年前に建てられている。村は 10 世帯，47 人が暮らす。この村は，Kae 村と Saadsomsrikonoi 村 14 班から分かれてできた。

［開発内容］寺の整頓，清掃。庫裡，説法庁，トイレの建設。

村人を誘って，タンブン，年中行事を行う。村人に，仏を拝むこと，読経すること，朝夕来ることなどを説く。仏日との説法。寺に籠もりに来るのは 5 名ほど。

［特技］神霊呪術師。他の地域から，師の治療を願ってくるものが多い。

［仏教の教え］地獄と極楽，悪行をしない。持戒。親族をともなって寺でタンブンすることなど。
［開発の問題］なし。この村は 10 世帯しかないので，たいしたこともおこらない。
［支援者］村人。他村からも手伝いに来てくれるものがいる。
［将来計画］台所を供えた庫裡，井戸の建設など。

55
［名前］Boonyang Khanthigo
［出身］Udhonthanee 県
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 11 班 Somhong 村 Sawangphosri 寺マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］56
［安居年］26
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 2 級
［寺院内地位］住職
［生育歴］Udonthanee 県に生まれる。出家前は農業に従事。同県市内 Markkhaeng 区 Matchimawat 寺にて出家。その理由は妻が亡くなったからである。2536 年にこの寺に移ってきた。その当時，この寺の住職が亡くなっており，頭陀行中であった師を村人がこの寺に招請したのである。
［寺院］僧侶 1 名のみ。
［開発内容］ 1）説法庁の建築。寺までの道路を舗装する。道路の清掃，整備等。 2）学校などに資金供与はしたことがないが，村の貧しい家庭を助けている。父親を亡くした家庭であるとか，面倒見るものがいない老人の一人暮らしとか。 3）この村では職業支援のようなことはしたことがない。村人は二期作で忙しいので。 4）安居期間中，寺に籠もりに来るものは 12 人，寺にだけ来るものが 50-60 名はいる。仏日には，朝食を取る前に説法を行い，村人の仏教理解を進めるような修養をとく。 5）今日においては，経済状態がよくないので，贅沢をしないようにいう。ちゃんと収支がつりあうようにものを買いなさいと。この時期は，タイの製品を使い，タイの伝統を維持せよと。こうしたことができていないように見えるので，ことあるごとにいってきかせる。
［特技］薬草による治療ができる。しかし，今は薬草等を寺においていないのでできない。また，自分自身も胆嚢の病気をわずらい，手術したので体力がない。
［仏教の教え］五戒を守ること。
［開発の問題］なし。村人，僧侶ともに協力しない，何かやる場合は相談して行っている。
［支援者］国会議員が寺を修復する費用をだしてくれて，2，3 ヶ月で修復が済んだことが

ある。
［将来計画］計画はあるが資金はない。可能であれば，就学前児童託児施設を作り，保母を雇いたい。これが子供達に一番必要なものであることが分かっているので。
［その他］村人の生活はほどほどに食べていけるだけのもので悪くはない。しかし，今年は物価が高騰し（ガソリンや肥料：袋買いで 260 バーツのものが 335 バーツに），他に食料や出面賃もあがって，農業経営が難しい。まあ，幸いなことに，自然から食べるものをえることができるが。今のところ，米は値上がりしているのでいいという話しもあるが，豊作かどうか，また，刈り入れの時に値段が下がる可能性含めて，先のことは分からない。

56
［名前］Thanya Wattanakhun
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 Kae 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 Kae 村 Ban Kae 寺　マハーニカーイ
［僧位］師僧
［年齢］56
［安居年］36
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］Thanya 区 1 区僧団長
［生育歴］Kae 村に出生。沙弥の経験はない。慣習に従い，20 歳で出家。頭陀行を行い，タンマトゥート僧侶として仏教の布教も行った。Udonthanee 県，khon khaen 県，南タイにも行った。
［開発内容］ 1）庫裡，僧堂，火葬台，寺の塀，山門の建築。　2）タンボン行政機構の議長，治安維持予備役隊の議長。その他，村落の開発に関わる仕事。　3）2541 年から就学前児童託児施設開所。　4）仏日には説法を行う。村人 70-80 名がくる。この村は大きいので人が多い。貧しいものを支援する。
［特技］聖水を作る。スークワンで運気を強めるなどをやるが，常時行うものではない。
［仏教の教え］道徳。家族，国家のことを考える。
［開発の問題］ない。村人はよく協力してくれる。時に，依頼や布施に応じてもらえないときもあるが。
［支援者］村人，会社，宗教局。タンボン行政機構。その他の役人。篤志家など。
［将来計画］貧しいものを救う基金を創設したい。布施や基金を申し出るものがいるかもしれないし，その趣旨なら集められるかもしれない。こう考える理由は，村の経済基盤が十分ではなく，田を 1 ライ程度しか持たないものもいる。他，身よりのないもの，夫を亡くしたもの，食べ物を作るための土地のないもの出面賃だけで暮らすもの，子供をバンコクで働か

せてその送金だけでやっているもの，こうしたものをなんとか支援できないかと考える。
［その他］僧侶というものは地域で役割を持つ。すなわち，村人を導き，村人の人間性や国家，宗教を発展させるのである。在家のものが悪行や不適切なことをやったときには道徳を説き，事の善し悪しを見極め，贅沢をせず，正しい行いをするようにいうのであって，経済的な繁栄だけではダメだと言い続けるのである。

57
［名前］Sing Seanlawanno
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 5 班 Saadsomsri 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 15 班 Saadsomsri 村　マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］84
［安居年］20
［学歴］中等学校 3 年
［仏教学習］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Saadsomsri 村に出生。出家前は教師。僧侶や沙弥に特別講義をすることもある。
（これらのデータは，住職が耳が遠く，体調も悪いために，住職代理の Boonchu Anattaro 僧から代理で聞いた。）
［寺院］僧侶 2 名。
［開発内容］ 1）僧堂，説法庁，布薩堂，鐘楼，洗面所，庫裡，境内の塀等の建設。 2）村人に職業訓練を施す。内容は不明。 3）境内に植樹。 4）村人に説法。仏日には 30 名ほどが寺に来る。日曜学校で仏教を教える。
［特技］Mhotham（呪医）である。厄除けの儀式を執行。
［仏教の教え］五戒，八戒を守る。
［開発の問題］なし。村人は団結して協力してやっている。
［支援者］宗教局，村人。
［将来計画］資金があれば，寺，村，学校に役立つことをしたい。

58
［名前］Somchai Suntharo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 10 班 Huahaed 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Thanya 区 Huahaed 村 Phosri　Ban　Huahaed 寺　マハーニカーイ
［僧位］師僧

［年齢］52
［安居年］31
［学歴］中等学校 6 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］Thanya 区僧団長，戒和尚
［生育歴］Eat 村に出生。学校を卒業後，出家した。Udonthaneeのマハーマクット仏教大学で仏教学とパーリ語を学ぶ。多くを学んだが，殆ど忘れてしまった。また，パーリ語の試験は通らなかった。2524 年に住職になり，2526 年に Thanya 区の僧団長，2527 年に戒和尚となり，師僧の位をもらっている。
（この寺には 2 度訪ね，朝食後は休息をとられているということでなかなか話が聞けなかった。）
［寺院］僧侶 4 名，沙弥 2 名。
［開発内容］1）庫裡を三棟，布薩堂，説法庁，鐘楼，山門，境内の塀の建設。 2）ヒートシップ 12 等の年中行事を手伝う。 3）タンボン行政機構と一緒に，村内の外周及び通りの道路を整備する。 4）子供の日とか，学校行事のある日に，毎年，教育資金か学校の備品を寄付している。 5）政府が設置したインフォーマル教育の施設維持の資金や備品を寄付。 6）村人に農業の指導。 7）仏日やその他の行事の日に説法する。村としては大きくないが 100 名は村人が来る。
［特技］聖水，薬草，呪文等で病者を治癒させる。骨接ぎもやった。昔は患者が来たが，今はあまりこない。
［仏教の教え］仏法の心，生活の指針などを説く。
［開発の問題］なし。わけが分からないものもいるが，言い聞かせる。
［支援者］村人，宗教局，県会議員，国会議員，国家開発党で情報通信技術省副大臣の代議士など。
［将来計画］毎年少しずつやるだけである。具体的にはない。王室と政府関係の儀式を行いもする。
［その他］経済状態は悪いが，ここは 2 つの用水路があるために，なんとかやっていける。

59
［名前］Noi Phuttasaro
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 Phongam 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 Phongam 村 Phongam 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］52

［安居年］23
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］区僧団長
［生育歴］自分は整理整頓，きちんとしていないとすまない性格である。出家前は仕立屋の仕事をしていた。

出家した理由は，現世のことに飽き飽きし，仏法に関心が向いた事による。出家後，Phongam 寺，Sukhothai 県の Ratsatthatham 寺，Rayong 県の Ophasri 寺，Chachuengsao 県の Phanomphanawat 寺，Kalasin 県の Hueiphaung 寺，Saraburi 県の Khakeo 寺，Thamsriuilai 寺などを 7 年かけてまわり，Phongam 寺に戻り，6 安居過ごした後に，2535 年に住職につくことになった。
［寺院］14 名の僧侶，沙弥なし。
［開発内容］1）庫裡，僧堂，鐘楼の建設。 2）日曜日に生徒に仏法を教える。僧侶と沙弥に仏法を教える学校を作る。仏日ごとの説法。毎年，沙弥の出家式をやる。
［事件］境内の椰子の木の近くに，椰子の新しい木が芽を出したが，その形が，普通と異なり，竜王に似ている。その脇には小さな井戸がある。それで村人が次々にやってきてこれを観察し，竜王ではないかと信じてしまった。この不思議な現象が出現する前に，出家した王族の女性の夢があり，そこで竜王と一緒にいることを願ったという。

椰子の木自体は 17 年目のものである。この新芽は 2540 年 6 月 1 日の 12 時に発見されたという。村人でこの話を信じるものがやってきて，この新芽を竜王として拝んでいる。宝くじを当ててもらうためとか。村人は，この新芽を「竜王大師」と呼び始め，その神通力を信じている。これから 2 週間後に，僧に，竜王の弟が側においてくれと頼んできたという。

この話は Kalasin 県中に広まり，一目竜王大師を見ようと，近郷から，他県からも常時人がやって来るという有様である。大師様とその弟がおられるところは，1 メートル四方に結界が張られ，線香と花，供物が捧げられている。

僧侶達は，これを迷信としてしているが，村人が勝手にしていることなので構わないでやらせておいている。
［特技］組織運営。
［仏教の教え］持戒，瞑想。知恵，四聖諦。
［開発の問題］なし。村人とは協力しあっている。
［支援者］村人。宗教局に予算を申請したことはない。
［将来計画］現時点ではいえない。しかるべき機会があればやるだろう。
［その他］僧侶の役割とは慈愛をもって村人に接し，一致団結とお互いに許し合うことを説くことである。

60
［名前］Samupranee
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 Donhan 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 Donhan 村 Sawangsangjandonhan 寺 マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］42
［安居年］21
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］両親は農業に従事。学校卒業後は農業の手伝い，沙弥にはなっていない。出家したのは，信仰心からである。Phongam 寺にて出家し，そこで仏教学 1 級を取るまで学んだ。その後，村の寺に戻り，安居を重ね 2525 年から住職を努めている。
［寺院］僧侶 4 名。
［開発内容］ 1）庫裡 1 棟，研修施設 1 棟の建築。 2）道路と堰の建設。 3）仏日ごとの説法。50 名ほどの村人が来る。 4）2540 年より，就学前児童託児施設を開所。これは宗教局の方針による。予算は宗教局からもらうことになっており，2-3 歳の子供が 80 名，保母 4 名で運営する。
［特技］仏法を説くことのみ。
［仏教の教え］団結心，倹約，麻薬撲滅などを説く。
［開発の問題］なし。
［支援者］村人のみ。以前，行政に支援を仰いだことがあったが，たいして何もしてもらわなかった。
［将来計画］布薩堂の建築。堰の掃除を村人とともになす。沙弥に命じて掃除はさせているが。
［その他］沙弥の教育と，若い世代への教育が必要である。村では区長と婦人会に働きかけて，若者が悪癖にふけるのを防ぐよう説いている。

61
［名前］Somkid Sujitto
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 Donhan 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 Dongsaigam 村 Srisawangtham 森の寺　タンマユット
［僧位］なし。

［年齢］59
［安居年］31
［学歴］無回答
［仏教学習］パリエン１段
［寺院内地位］無回答。
［僧団内地位］無回答。
［開発開始年］2529
［生育歴］両親は農業に従事。もう二人ともなくなった。母親が幼少時になくなったので，継母に育てられた。その人は当年 129 歳（？）になる。60 歳を過ぎた娘や娘婿達と暮らしており，まだ達者である。家族の生活は貧しく，誰も面倒を見てくれるものもなかったので，なんとか支援してくれるものを探しているのであったが誰もいない。誰かいないかと方々を探しているうちに人が見つかった。これは前世での行いがよかったからだろうと思う。

僧侶の師匠は，Thongma Thawaro 師であり，５年前になくなった。出家する前は，結婚して娘を一人もうけていた。その娘は結婚したが娘婿が亡くなったために，今ではその娘と子供の生活を支援してやっている。

サンガが Donsaigam 村に 2525 年，寺を建設した。以後，寺は次第に整備されてきている。土地は 29 ライある。現在の住職はサンガにより 2529 年にこの寺に招請された。この寺で最初の安居を過ごしているときに「Duangjaithepthida 最愛の天女」という名前の天女がお一人，夢の中に現れた。この方は 2000 年前に亡くなられ，おつきのものと一緒にゆかりの土地をめぐられ，ここでは以前に僧侶を助けられていたのだという。その天女がおっしゃるには，住職は，語ることによって社会の中に入っていくことができるものであるという。その方の言葉遣いは女性に近いものであった。夢から目覚めるとそのことを思い出しながら，言われたとおりにしようと思った。その言葉は言葉として分かるだけの示唆であったが，そのうちに姿が見えるようになったという。ただの夢ではないのである。

住職が寺や地域の開発を進める際，反発してきたものがあるが，誰もみな平等に扱うことで，事を進めていけるようになったという。

［寺院］僧侶６名，沙弥１名。Samnaksong　準寺
［開発内容］１）この森の寺の創建は 2525 年。Donhan 寺を創建した。Noonsamakkee 森の寺を創建。　２）地方の人々に米を配給する際の議長。　３）牛や水牛などの動物で屠殺されるものを買い戻してやる。　４）学校，保健所，その他支援を必要としているところを援助する。　５）年中，子供達を教えたり，救いを求めてくるものに応じたりしている。　６）村人を支援する些細なことはきりがないくらいある。　７）説法，瞑想法を村人に指導する。タンブンと村人の一致協力を説く。　８）村の婦人会の活動を支援する。

芸術家を招待したときなどは村人に迷惑をかけないように寺で対応する（この寺ではモーラム・イサーンのような芸能を催すことに熱心であり，モーラムの芸人達も，住職の心意気に感じて，低額で或いは無料でモーラムを行っている）。また，タンブンに他村など遠

方から人が集まった場合は，近くの村人が供応する。これが一致団結の意味である。
［特技］無回答。
［仏教の教え］一致協力。どのような仕事であっても力を合わせてやれば，自然とうまくいくのである。間違いは許してやる。タイの文化と地方の文化を大事にする。善行は自分だけで一人でやるものである。一般には，悪いことほど人はまねたがる。業と行為の報いは必ず受けるということを教える。したようにしかならないのである。善行をなせば結果もよい。必ず，行為はかえってくるものである。
［開発の問題］準寺の扱いなので予算がおりてこない。住職は僧団の位階・仕事を引き受けないので，この種の職務手当がない。信仰心の厚い人達からの喜捨しか，開発のための資金がない。
［支援者］村人，及び信仰心の厚い人達からの喜捨。
［将来計画］無回答。

62
［名前］Phim Kussalo
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 4 班 Khoksri 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 Khoksri 村と Nongtao 村 Srisawang-phaiboon 森の寺　タンマユット
［僧位］なし。
［年齢］67
［安居年］16
［学歴］小学校 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［開発開始年］2525
［生育歴］Khoksri 村に出生，農業に従事していた。その後，Songklaa 県 Sadao 郡でゴム農園を経営しに行き，そこで結婚した。子供を 1 子もうけた後，離婚。住職は農園を妻にくれてやったが，それから苦労続きで，自分の農園を助けてくれるものもなく，これも売り払った。現在家族は，Songklaa 県の Hatyai 郡で暮らしている。
　出家した理由は自分の両親へ恩返しをしたかったからである。2529 年よりこの寺の住職である。
［寺院］僧侶 3 名。
［開発内容］ 1) 仏殿の境界標識，説法庁の建築。これ以外は，Thonburee 村に森の寺を建築するべく手伝いに出かけたことなど。ここは，まだサンガから寺としての許可証を得ていない。 2) 個人の内面の発展，慣習の維持。瞑想法の指導。村人から寺の資金を募ったこ

とはない。バンコクなどへ働きに行った篤信のものたちからの喜捨や黄衣奉献祭などで喜捨されたものを用いる。
［特技］仏への帰依のみ。
［仏教の教え］開発担当者の指導に従う。瞑想法において呼吸の仕方を教える。集中の仕方，歩行瞑想を教えるなど。
［開発の問題］なし。喜捨したり，供物を持ってきたりする人はそのような機会をまた得るであろうから。
［支援者］村人。
［将来計画］説法庁の完成。現在は基礎工事が済んでいるので。

63
［名前］Phong jaruwanno
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 KhoksomBoon 区 Nongphai 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 6 班 Noonhai 村 Noonhaiwitthayaram 寺　マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］70
［安居年］ 4
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］無回答。
［寺院内地位］無回答。
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Kamalasai 郡 Khaolam 村に出生。子供の頃，家族が離婚したので，自分は母方の祖母の実家がある Nongkhai 村で育てられた。それから Mahasarakham 県に行き，出家までに三回結婚した。先の 2 人の妻との間にできた子供は 9 人，最後の妻との間に子はできなかった。最初と二番目の妻は死亡。3 人目の妻は Roi-et 県 Phochai 郡 Nongbua 村にいる。
　子供達はそれぞれに大きくなったので，2 安居くらい一休みのつもりで僧になったのである。そうしたら，家族はそのまま僧侶を続けたらいいのではないかと言ったので，そのまま僧侶でおり，2540 年に住職になった。
［寺院］僧侶 3 名，沙弥 1 名。
［開発内容］仏日ごとの説法。村のことは何でも手助けしてやる。助けられないこともあるが，それで十分であろうと思う。寺院の建築に関しては，まだ行っていない。僧堂は既にできており，これに 30 万バーツかかった。安居があけたら，バンコクに行き，黄衣奉献祭などの施主を募集しに歩く。
［特技］ござなどを編む。いろんなものが作れる。

［仏教の教え］どのようなこと，行為に関しても，原因がどうであれば，どのような結果になるかを説明する。
［開発の問題］なし。この村はほぼ食べていける程度の経済状態であり，2-4 ライほどの土地しか持たず，食うや食わずの農民は貧しいということになろうが，それでも出面仕事もあるし，自然の産物をとることもできる。
［支援者］村人。協力しあっている。宗教局からの予算配当あり。1万バーツほど。
［将来計画］説法庁が完成したら，火葬台，境内の塀，庫裡の新築など。

64
［名前］Khamtan Aphassaro
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 2 班 Dannua 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 2 班 Dannua 村 Prachasatthatham 寺マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］63
［安居年］ 8
［学歴］小学校 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］出家前は農業に従事。現在，家族は Dannua 村に在住。出家した理由は，自分が病気がちであるので，仏法にすがってみようと考えた。また，閻魔大王の命で地獄の役人が自分の命を取ろうとしているので，死ぬ運命にあると聞いたので，出家して，報恩の行をし，功徳を積もうとした。こういうわけで出家した。
　自分は静寂を好み，瞑想を楽しんでいる。Udonthanee 県 Sukhothai 寺，Tak 県，Roi-et 県等の寺で修行をした。
［寺院］僧侶 4 名，沙弥 2 名。
［開発内容］ 1) 火葬台，葬儀参列者の休憩所，台所，寺院の塀の建築。Phapa samakkee (団結のためのパーパー祭) で集めた資金で山門を建築中。 2) 公共林に植林。600-800 本を寺の資金だけで植える。 3) 仏日ごとの説法，14， 5 人の村人が寺に籠もりに来る。
［特技］森の中で瞑想すること，及びその指導。
［仏教の教え］仏陀が説いた教えの中で重要なものを説く。
［開発の問題］あるが，それは日常的にどんなことでもありうる。何かをなそうとするときに資金が必要となるが，これは問題ない。その都度，喜捨を募ってその額でやればいい。
［支援者］村人と，バンコクやサムットプラカーン等よそに働きに行った村の出身者。
［将来計画］庫裡と寺の塀の完成など。

65
［名前］Phrom Paphassaro
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 Phongam 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Phongam 区 Phongam 村 Phonthong 森の寺　マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］74
［安居年］8
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］仏教学試験監督
［生育歴］Phongam 村に出生。農業に従事し，家族を持ち娘 8 人，息子 2 人をなした。うち，1 名がもう亡くなった。子供達はみな家族を持っている。
　かつて，沙弥を 2 年やり，仏教学 2 級までとっていた。妻が亡くなったので，もう一度，出家した。
［寺院］僧侶 4 名，沙弥なし。
［開発内容］1）火葬台，説法庁，その他諸々を，2 年前になくなった住職と一緒に建築した。 2）毎年，郡内の学校に教育資金を提供している。というのは，郡の教育担当事務所から，毎年，資金供与の依頼が来ているから。 3）村人のために，必要な物資を支給。ガチン祭などを行い，村に必要なものを購入する資金を集める。 4）仏日の説法。37，8 人の村人が寺に籠もりに来る。この数は，Phongam の村の寺より多い。安居期間は村人が籠もりに来るが，明けると誰も来ない。これはどこの寺でも同じである。
［特技］モータムであり，聖水を使っての厄払い，長命祈願等はできる。しかし，病気治療や邪霊抜除はできない。
［仏教の教え］持戒。時には，寓話のような話しもする。
［開発の問題］毎年，寺に泥棒が入る。この 4 年間，一度ずつではあるが。捕まっていない。僧侶が朝の托鉢に出かけた頃に寺に入り込み，僧侶の金を盗むのである。そこで，寺に鐘をおかなければいけないときには，村議会に預けることにしている。
［支援者］村人，役人，篤志家など。
［将来計画］庫裡から遠い水浴び場を新築したい。古い僧堂の新築など。

66
［名前］Phuttha Yasotare
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpaen 区 Sema 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpaen 区 Sema 村 Phochaisemaram 寺　マ

ハーニカーイ
［僧位］師僧
［年齢］52
［安居年］40
［学歴］中等学校 3 年　中学教員特別免許
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］Kamalasai 区僧団長
［生育歴］2488 年に出生。両親は農業に従事。沙弥の経験あり。比丘となったのはこの世と仏法について勉強を進めようと考えたからで，そのまま僧侶を現在まで続けている。この間，社会的活動を行い，特に，美術・文化の方面で貢献しているといえよう。
　セーマー碑は重要な文化資産である。仏教にとっても重要なものであったにも関わらず，誰もこれを維持･管理しておらなかった。それで，セーマー碑を収集，また陳列するなどして，保管してきたというわけである。セーマー碑を最初に保管し始めたのは，2509 年である。
［開発内容］ 1 ）美術・文化振興。寺院内に保管された寺の古美術品等の説明・案内。 2 ）仏塔内に収蔵されたもの等，古美術の管理，ロケット祭り等（雨乞い儀礼）の伝統を守る活動の指導。 3 ）官民を問わず，公式行事における開式の儀礼等を行う。 4 ）教育に関しては，東北タイの文化，仏教について公演等を頼まれて行う。 5 ）その他，開発に関わる事柄。
［特技］様々な教育機関で講演を行うこと。子供達の指導。
［仏教の教え］仏法で重要なもの，一致団結，報恩，これらは人々が健康で幸せに，繁栄していくために必要なこと。
［開発の問題］各地で講演などしながらいうことは，若者達が麻薬やその他の悪癖に染まってきていることであり，教師達が宗教のことを適切に教えていないのではということを感じる。
［支援者］村人，篤志家。
［将来計画］計画を完遂させたいと思っているものが 2 つある。一つは，セーマー碑を保管する建物の建設である。完成までには相当の時間がかかるであろうが。今は，セーマー碑に関する変遷を史書として執筆しているので。もう一つは，子供達のために教育を充実するような計画を今後考えたいと思っている。

67
［名前］Boontham Santakitto
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpaen 区 Nongpaen 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpaen 区 4 班 Nongpaen 村 Phochainoonsung

寺　マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］69
［安居年］ 6
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Nongpaen 村に出生。沙弥を 3 年，僧侶を 4 年やったことがあり，Nongpaen 寺の住職を努めたこともあった。その後，還俗し，家族を持ち，Noonsung 村に在住。農業に従事していた。2 度目の出家をしたのは，仏教への帰依の気持ちが増したからである。
［寺院］僧侶 5 名。沙弥なし。
［開発内容］ 1) Udonthanee 県 Nonghan 郡 Nasai 区 Nongphai 村に寺を作り，そこに 4 年いてから，今の寺に戻った。 2)現在，説法庁を建設中。もう少しで終わるというのに，予算がなくなってしまった。計 260 万バーツ使った。南タイ，東北タイ，バンコクなど各地の方から基金を集めた。そうしないと無理であった。 3) 水タンク，布薩堂，庫裡，葬式の際の親族待機所などを作るのに 6 万バーツ（少なすぎる？）使った。 4 ）学校等へ教育資金を給付したことはない。 5 ）2541 年より，就学前児童託児施設の開所予定。 6 ）雨安居の時期，仏日ごとの説法。20 名ほど寺に籠もりに来る。
［特技］油と聖水を用いた骨接ぎなど。
［仏教の教え］仏法に関心のあるものに，功徳，恩，布施，瞑想などを教える。
［開発の問題］なし。
［支援者］村人。
［将来計画］村人をこれからも助けていきたい。

68
［名前］Boonrien Attathammo
［出身］無回答。
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpaen 区 Nachaug 村 Phothongsangjan 寺タンマユット
［僧位］なし。
［年齢］48
［安居年］27
［学歴］学校にいっていない
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］無回答。

［僧団内地位］無回答。
［寺院］僧侶５名，沙弥３名。
［開発内容］１）僧堂，庫裡，山門の建設。　２）生活に問題を抱えた人への相談。　３）神霊呪術師。多くの精霊や神霊への対処が可能。なぜなら，師は聖なるものを持っているから。台湾などの外国からも来て，師の霊験あらたかな術を受け，回復したことがある。　４）2541年から，就学前児童託児施設の設置。　５）スポーツなどの教育振興。　６）学校への教育資金はまだ供与したことがない。　７）仏日ごとの村人への説法。25名ほどが寺に籠もりに来る。
［特技］Mhodoo 占いもできる。聖水や現代の薬で治療可能。座って瞑想を行い，病者の症状等を診断できる。それから，どういう薬がいいのか紙に書いてやる。日によっては病人が多数来ることもある。テートスィアンができる。これは３人の僧侶で組みを作っていくものである。師は，テートスィアンを2528年以来 Mahasarakham 県 Kantharawichai 郡 Makha 区 Muang 村でやっている。
［仏教の教え］説話などを用いる。吉祥，千里眼の話など。
［開発の問題］なし。村と寺は一致協力している。寺で事業があれば，村人は協力してくれる。
［支援者］村人。各地の篤志家や，この寺に治療や占いにやってくる人々。
［将来計画］村の開発と，寺に周囲の道路整備。

69
［名前］Suwandee Techathatto
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpaen 区２区 Noonphosri 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpaen 区２区 Noonphosri 村 Noonphosri 寺マハーニカーイ
［僧位］なし。
［年齢］50
［安居年］８
［学歴］小学４年
［仏教学習］仏教学１級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Noonphosri 村で出生。家族は持ったことがない。17，８歳の頃，父親が亡くなり，父親に代わって家族の面倒を見なければならなかった。母親，母の母，妹・弟たちである。それから，Prajaenburee 県に家族で移ったが，今は Srakaew 県にいる。23歳の時，最初の出家をし，Kalasin 県のタンマユット派の寺で，１年間僧をやった。そして，母親，祖母が亡くなり，妹・弟たちが家族を持った後，もう一度，出家しようと思ったのである。

それから一介の頭陀行僧となった。師は時間があれば，ラオスに 10 日間という具合に頭陀行に出かける。村人は師を尊敬しており，Songnam 僧に水浴びをさせる儀式を 2 度行っている。これは東北タイの慣習である。一度目は Sa という位階を得，二回目は Yakhu となった。

［寺院］僧侶 1 名のみ。

［開発内容］ 1) 説法庁，鐘楼，水浴び場，庫裡 2 棟の建築。 2) 自身で物品庫，大きめの庫裡は 20 万バーツの予算で作ったが未完成。 3) 竜王のための舞台を作る。雨安居入りの時にコンテストを行うので。Khaosan 白米儀礼の際にも用いる。 4) 村人と協力して，村内の道路を修繕する。 5) 村の学校に奨学資金を提供。子供一人あたり 100 バーツ程の金を配り，それで学用品等を買わせる。毎年行っている。 6) 安居入りの時は，仏日ごとに説法をする。寺に籠もりに来る村人は 25 名ほど。安居明けは来ないが，朝晩寺に村人が来る。住職がいないときでも，村人が誘い合って寺に来て，お勤めを行っている。 7) 毎年 9 月の師の誕生日に (?) 9 名の僧侶が招請され，この寺に来る。そこで，来世に生まれても家族が温かく，難儀に遭わないようにと誓願する。 8) 大きなタンブン，黄衣奉献祭やガチナ祭の時は，喜捨された金を寺は取らず，社会に還元するべく寄付することにしている。

［特技］薬草医。酒をやめる薬なども調合できる。それを飲むと，酒を飲めば吐き気がする。それで酒をやめられる。或いは月経がとまり，子供を持てない婦人の治療とか。

［仏教の教え］布施，知恵等仏法の重要な箇所を村人に語る。死んだら，どんなものを所有していてもあの世へ一緒に持っていくことはできない。布施を知らなければならない。布施をした心のみがあの世に届くのである。

［開発の問題］なし。しかし，詐欺師にあったことはある。その男は寺にやってきて，自分は運輸関連の業務を取り仕切っているものだと名乗り，もし，この寺院で大きな石をほしければ，格安でおろすことができるといった。そのためには 1000 バーツの前金を現金で払ってもらわねばならないと言われ，住職は渡した。そのまま何の連絡もないので，その男の会社に連絡してみると，そんな男は知らないと言われ，いっぱいくわされたことがわかった。

［支援者］村人。その他，バンコクにいるものとか，個人的に師を敬愛しているものが喜捨してくれる。

［将来計画］寺及び村の発展のために少しずつ事業をやっていく。

70

［名前］Sirikhunawalai

［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpaen 区 Nongpaen 村

［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpaen 区 Nongpaen 村 Nongpaen 寺　マハーニカーイ

［僧位］師僧

［年齢］65
［安居年］44
［学歴］小学 4 年
［仏教学習］仏教学 1 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］Nongpaen 区僧団長
［生育歴］Nongpaen 村に出生。出家前は農業に従事。出家は慣習に従い，20 歳を過ぎて行ったもの。出家後，仏法の学習を十分しなければ，心豊かになれないと思い，十分な学習をするまでずっと比丘のままでいようと決意した。他の地域へ頭陀行で出たことはない。しかし，2528，2529 年に郡の寺と友人の寺を回ったことがある。
［開発内容］ 1）庫裡，説法庁，火葬台，村内への拡声器塔境内の塀，布薩堂，その他，寺院内の建物の建築。 2）寺院内には米銀行等は設置していない。それは村人が既に組合組織を持ち，米倉を持っているから。 3）土曜日に 19-21 時の間，生徒達に仏法を教える。村人達に，仏日ごとの説法。だいたい 40 名近くの村人が雨安居の期間は寺に籠もりに来る。殆どが女性である。男性は自ら出家して仏法を勉強しているが，女性はその機会がないので，女性たちに機会を提供しているのである。 4）村人達の支援をする際に，師は村の中で最も力を発揮する。助けることが出きることであれば何でもやる。アイディアも出すし，はっきりと意見も言う。中学校建設の時も力になった。 5）村人でないものがあれば分け与えてやる。例えば，焚き付けの木などである。昔は寺院の境内に塀がなかったので，誰でも入って木を切ることができた。このようにして木をかなり切ってきたので植林を始めている。 6）タンブンや年中行事等の指導。ロケット祭（雨乞い儀礼）では，実行委員会の長になる。或いは，木綿糸を腕に巻いて運気を強めるプーク・クワンの儀礼など，村人の要請に応じて行う。 7）タイの伝統に従って村人が人間を修養するように指導する。良い，美しい行いをしておれば，古ぼけた道徳を守ることはない。なぜなら，文化，道徳，村人の慣習は様々である。僧侶は村人がうまく身を処せるように助けてやればよい。例えば，村の祖霊を饗応するようなとき，僧侶はその時が来た時を告げ，村人にその際の心の準備ができるように用意させるのである。 8）村人への指導の仕方は，まず相談してからことを始める。村人が寺に，寺の境内や寺のものを使わせてほしいと申し出てくれば使わせてやる。村の協同組合の会合であるとかそういうものに，机，イス，音響機器等を貸す。
［特技］治療行為はするが，息を吹きかけるか，綿糸を結んで，運気を強め，吉祥の祈りをするかである。薬草とか用いない。
［仏教の教え］村人には一致団結の大切を説く。もし，協力し合わなければ，大したことはできないだろうし，失敗することが目に見えている。協力すれば，それがどんなに大変なことであっても成功に導くことができるであろう。
［開発の問題］なし。
［支援者］村人，篤志家。役人は殆どこない。

［将来計画］無回答。
［その他］この村は農業村落であり，程々の暮らしをしていて，富めるものもいないが，貧しいものも少ない。水稲は二期作が可能だし，日照りでも，トウモロコシなどを植えられる。
　僧侶が地域社会に果たす役割とは，第一に，支援する労力を惜しまないことであり，第二に，学校のために教育資金を提供するような財団を作るなど資金的な援助をすることである。

71
［名前］Ophaswaraphorn
［出身］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpaen 区 4 班 Nabung 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Nongpaen 区 4 班 Nabung 村 Sawangarunnabung 寺　マハーニカーイ
［僧位］師僧
［年齢］59
［安居年］36
［学歴］中等学校 6 年
［仏教学習］仏教学 1 級　パリエン 2 段
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］なし。
［生育歴］Nabung 村に出生。宗教に目覚めて出家し，生涯を仏教に捧げようとしてきた。Kalasin の Sribooanruang 寺で修行後，現在の寺へ。その他，勉強のために他県で学んだこともある。
［寺院］僧侶 2 名のみ。
［開発内容］寺の開発と地域開発。　1）庫裡，説法庁，他寺院内全ての建築物の建築。　2）仏教で重要な日には，若者に仏法を説く。雨安居中は，22 名の村人が寺に籠もりに来る。その他は年中行事の時に来る。　3）学校へ教育資金はずっと配布してきた。その勲功により表彰もされている。Kalasin 県 Kamalasai 郡学校外教育施設（教育省学校外教育局）より，2540 年に 400 バーツの寄付への感謝状。Kalasin 県 Kamalasai 郡小学校本部から，2538 年に 3 度ほど感謝状をもらっている。
［特技］なし。しかし，書物を読むのが好きで，一冊読めば，それに関連するまた別な本を読みたくなる。しかし，最近は視力が悪くなって，日中しか本を読めなくなった。
［仏教の教え］三蔵から重要な教えを説く。
［開発の問題］時々ある。会議などで割れることもあるが，収まるところに収まる。
［支援者］村人と篤志家。
［将来計画］将来のことはよく分からない。現在の様々な問題を解決しての話しであろう。
［その他］村の生活レベルは次のようなものである。　1）農業を始め楽ではない。なぜな

ら，相当の労働力を用いないといけないので。　2）食料を得ることも楽ではない。自然から得ることができたのは昔の話し。店から買うしかなくなった。食材を買って調理するのがせいぜいである。もちろん，米はある。しかし，農民銀行や組合にもっていって，出面賃や肥料等々の借金を返済しなければならない。豊かなものは資本家や銀行であり，貧しいものは自分達だけで自力更正をやることは難しい。

この村には資本家層はいない。この村では水田を多く持っている農民がいないので，組合がお金を貸している。豊かで他の人に金を貸せるものといえば，caophoo と呼ばれる地域の実力者，マフィア的な人物であるが，これらは南タイ，東部タイ，ペッチャブリー県などにいるだけである。

タイ人の性格は，中国人と比べて，勤勉さ，我慢強さ，人生観など様々な点で異なる。タイ人は遊びが好きだし，楽しいことが好きだ。中国人からものを買うことが好きだ。それで中国人の方が社会的地位は高くなった。中には田畑を有しているものもいるが，熱意に欠けるし，適当な勤勉さがない。しかも，学歴がない。現代の人々は世の中のことを知らない。教育に熱心ではない。自分の仕事に必要なだけ学ぶ，金儲けになることだけ学ぶだけである。自分達の生活の基盤については知らないのである。金儲けをしたいという時代傾向をグローバリゼーションという。

このような経済状態に陥った原因の一つは，若い世代に教育を受けて精神を鍛錬するという経験が欠けていたことがある。自分の労働時間を金に換えるだけという発想だから，仕事に質が伴わない。もちろん，現在の経済について語ることは難しい。しかし，簡単に語るとすれば，それは道徳の問題にもいきつく。五戒の三番目に，汝姦淫するなかれとあるが，その意味は不品行をするなということであるが，そのようなものにエイズ患者が多い。そうなってしまえば，治療する金はない。或いは，宝くじに熱狂するのも問題としてあげられよう。それで有り金を全てすってしまうのである。貯蓄するということを知っているものには金がある。そして，道徳を知っているものがエイズになることはないし，遊びもしなければ，賭博も行わない。これらの諸問題は政府も指摘済みであるが，解決案はない。人に道徳心を持たせる以外に解決方法はない。現在，バーツの価値が暴落しているというが，そういった人間の問題が関係しているのであろう。

そういうわけで，僧侶は村人にこのような問題に気づいてもらい，どうしたら解決ができるのかを説く役目があるわけである。

要するに，現代の社会病理は，都市の人間と地方の人間との乖離にある。都市の人間はものの売り買いだけだし，地方は地方でやっている。自分達の労働力を使って生きるだけである。そして，都市の生活様式をまね始める。町の人間が持っているものを自分達も持ちたいというわけである。それはそれでいいものもある。町の人間は話し言葉も洗練されている。村の僧侶は，言葉は適切なものを選ぶが村の話し方で村人に話しかける。丁寧な言い方をすれば，村人はそれを使うようになるだろう。

政府の産児制限政策により，寺，村落，学校の関係は崩れようとしている。確かに，子供

や孫は住民登録票のレベルでは村に存在している。しかし，よそへ行ったまま死んだものもいる。例えば，若い者同士で rayong 県に働きに行ったものがいる。両親は田植えのために出面を雇わなければならない。時には，子供達が孫を抱きかかえてきたまま，年老いた両親に預け，それで働きに町へ戻ることもある。これは寺にとっても大きな問題になるだろう。つまり，若者は町へ出たまま，年老いたものは農業と子守りで忙しいとなれば，誰が寺の世話をするのか。（櫻井註：村の寺院が就学前託児施設を設置する理由）

72
［名前］Juang Kowitho
［僧侶位階］なし
［出身県］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 9 班 Donwai 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 9 班 Donwai 村 Palikaramdonwai 寺（マハーニカーイ派）僧侶 4 名
［年齢］89 歳
［安居年］40 年
［学歴］不明
［僧学歴］不明
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］不明
［履歴］BanDonwai 村に生まれる。出家前の職業は稲作であった。この数年は高齢であるため，健康が優れず。去年まだ歩けたが，今年に入ってから自分で立ち座ることや食事ができず。
［開発の動機］不明
［開発開始年］不明
［開発事業］村民の伝統的功徳行の活動を手伝う。布薩堂，寺の鐘楼の建設。1998 年 5 月本堂（Kala Karnparian）の建設が始まる。聖水を使って交通安全予防や病人を癒す。
［開発方法］不明
［開発と仏法］不明
［特技］不明
［開発上の障害］なし。
［支援団体］ 2 カ所の村民（BanDonwai Moo 9 と Moo 14）。
［将来計画］1998 年 4 月本堂（Kala Karnparian）の基礎部を建て，1998 年 5 月本格的建設が始まる。
［データの提供者］
　名前 Phra Seree Analaya　年齢 70 歳　安居年 3 年　履歴，出家前に職業は稲作であった。しかし，20 年近く三輪タクシー運転手の経験を持つ。家族がないので， 3 年間 Aphur

Taklee Nakornsawan や 4 年間 Khonkaen などのいろんな所に住んだ。独身が自由で気楽という理由で，家族を作りたくなかった。

73
［名前］（出家）Phrakru Kammalasayakhun
［僧侶位階］師僧　特別級
［出身県］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 9 班 Donwai 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 14 班 Donwai 村 Krauwan 寺（タンマユット派）僧侶 8 名，沙弥 2 名。
［年齢］64 歳
［安居年］41 年
［学歴］小学校 4 年
［僧学歴］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職（1963 年以降）
［僧団内地位］1967 年以降，Kamalasai 郡僧団長（タンマユット派）
［履歴］出家前は米作り。最初の出家期間は一週間だと思う。仏教学を始めてからだんだん勉強したくなり僧侶になる。1957 年の 7 月 3 日出家する。戒和尚は Phrakru　Seelasansopit。導師 Phra Nu Akakamo。副導師は Phra Gaun Panyapalo。出家してからは 5 年間 Watpa Krauwan に住む。仏教学 1 級から 3 級まで学ぶ。1959 年，仏教学の教師になる。1961 年，Wat Pangsimaung 寺院 Tambon Lakmaung Amphur Kamalasai が移転して仏教学を手伝う。瞑想のため各地を巡礼する。1974 年，住職になるためのコースを受講，他の寺院で研究を受ける。彼は第一回目の卒業生である。安居年が長くなった後，Watpa Krauwan に戻る。
［開発の動機］村民がひどく貧しいので，支援したいと感じた。
［開発開始年］1959 年
［開発事業］ 1）1959 年僧堂 1 棟の建設。1963 年僧房 2 棟の建設。1982 年本堂 1 棟の建設。1982 年－1984 年布薩堂のリフォーム。1984 年 Somdetphra　Ariyawongsakottayarn（Somdetphra Sangkarat＝僧団長猊下）は，Watpa Krauwan で主席としての Luuknimit（本堂の境界を示すために地面に理める直径 25 cm ほどの円い石）を理める。1987 年寺院内の門と壁の建設。1991 年不明 1996 年老化した僧房の変わりに新しい僧房を建設。 2）仏教学学校での教師。子供に道徳研修。1997 年 Kamalasai 県の仏教学コンテスト会長。 3）村内の道路を建設する支援。青少年にコミュニティ開発についての研修。 4）毎年郡内や村内に所属している学校の 5 不明 6 名学生に奨学金の支援。 5）編物細工の職業を紹介。麻薬等の悪徳に陥らないための道徳研修。 6）薬草師，薬草で治療する。薬草が植える。 7）毎月 2 回の仏教の日，瞑想や道徳研修。30 不明 50 人の村民が参加する。 8）16 ライ森林保護。僧侶からの開発政策が村民に広めるために，村民の指導者クループを作る。

［開発方法］村人にするべきことを言い伝えること，活動に誘う，説法，アドバイスという方法。
［開発と仏法］お互いに助けたり分与したり。苦しめないように。
［特技］瞑想，説法，道徳研修。頭陀行。薬草で治療する。
［開発上の障害］殆どなし。村民の時間があったら，手伝ってもらう。
［支援団体］Prof. Dr. Ukrit 不明 Monthanee Mongkhonnawin の支援。信仰者。
［将来計画］教育がない貧しい村民や青少年福祉財団のための資金が欲しい。道徳研修の出張。
［意見］村民の生活には僧侶が必要。僧侶のコミュニティに対する役割を明確にすべきだ。開発僧が全国にいれば，国がもっと発展する。その理由は，昔からタイ人が僧侶を尊敬してきたからだ。人々に正しい行為，社会のための行動を 4 つの仏法を使って教える。そうすれば，社会が平和になる。もし僧侶がこのような方法を紹介すれば，人々がお互いに幸せに生きる。それぞれの人々が自分の役割を行う。特に青少年は道徳研修によく参加する方がいい。

74
［名前］（出家）Phrakru Khosonpanyathorn
［僧侶位階］師僧
［出身県］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 2 班 Khoklam 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 2 班 Khoklam 村 Khoklam 寺（マハーニカーイ派）僧侶 7 名。
［年齢］59 歳
［安居年］33 年
［学歴］中学校 3 年
［僧学歴］仏教学 3 級・パリエン二段
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］区副僧団長
［履歴］両親の職業は稲作であった。Ban Khoklam 学校を卒業した後両親の仕事を手伝った。Aphur Kumpawapi へ移動してから 8 － 9 歳頃に両親が他界した。その後，叔母のところへ引っ越しし，世話になった。25 歳になってから出家した。最初は村落の寺院に滞在し道徳を勉強した。その次は Amphur Nonghan, Udonthani・Wat Sisaket, Nongkai で 2 年間，Wat Janprasit Amphur Banphai Khonkaen, Amphur Chumphae で 2 年間，Amphur Phukhaew そして，1976 年以後 Wat Khoklam に戻ってきた。1977 年以後住職になった。
［開発の動機］不明
［開発開始年］1977 年頃

［開発事業］ 2段僧房，僧堂，火葬場，遺体を置く堂，山門，寺院の壁などの建設を行う。木を植える活動。小学校6年生に道徳を教えること。毎月2回の仏教の日，道徳研修。村内の道路を開発する。託児所を設置する計画を行っている。
［開発方法］不明
［開発と仏法］勉強を愛させること。道徳，我慢すること，勤勉努力，熱心にやること，親孝行，団結することを確信する。
［特技］不明
［開発上の障害］問題があったが，小さな問題のみ。
［支援団体］村民，村の指導者，区自治体。
［将来計画］立派な大人になるための青少年・子供達に道徳を教えて精神面の開発を行う。寺院，恒久建築物と共に道徳的開発を行う。

75
［名前］（出家）Man, Gantaseelo
［僧侶位階］なし。
［出身県］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 8 班 Noonmaung 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 8 班 Noonmaung 村 Wiweksamakkeetham 森の寺（タンマユット派）僧侶3名。
［年齢］76歳
［安居年］ 4年
［学歴］小学校4年
［僧学歴］不明。
［寺院内地位］住職代行（住職が還俗）
［僧団内地位］不明。
［履歴］出家前の職業は稲作であった。現在，家族はまだ BanNoonmaung, Moo 8 Tambon Dongling, Amphur Kamalasai, Kalasin に住んでいる。出家の原因は，この村出身ではない僧と，この村出身の僧との間にトラブルがあったから。自分が出家すれば，大丈夫かどうか試してみたいという思いがあった。
［開発の動機］不明。
［開発開始年］不明。
［開発事業］ 2棟僧房の建設。信仰者への瞑想研修。森林を植える活動に村民を誘う。2つに分けられている森林は，一つがコミュニティ（村所有）でもう一つが寺院の土地である。僧侶と村民はお互いに森林を守る。昔は森林の面積が300ライより少しひろかったが，現在は200ライぐらい。そのうち，寺院の土地は96ライである。
［開発方法］不明。
［開発と仏法］不明。

［特技］不明。
［開発上の障害］なし。
［支援団体］村民。宗教局から 40,000 バ不明ツの支援を受け，僧堂の建設。
［将来計画］僧房の修理。未完成の僧堂を建て続けたいので，金銭的な支援が欲しい。

76
［名前］（出家）Maha Prasit Chutinataro
［僧侶位階］Phra Maha
［出身県］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 Suankhok 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 Suankhok 村 1 班 Suankoh 寺（マハーニカーイ派）僧侶 6 名，沙弥 7 名。
［年齢］52 歳
［安居年］ 6 年
［学歴］小学校 4 年
［僧学歴］仏教学 3 級・パリエン 3 段
［寺院内地位］住職。
［僧団内地位］不明。
［履歴］出家前は稲作。出家の理由，仏教を信仰しているから。家族は村にいる。息子二人。Saraburi 県での軍隊経験。妻が亡くなり，子供が成長してから，出家を決意。昔，Nakron-prathom 県の Prathomjedee 寺院で小僧の経験あり。沙弥になってから Suankhok 寺院でパ不明リ語や仏教学を勉強する。
［開発の動機］不明。
［開発開始年］不明。
［開発事業］毎月 2 回の仏教の日，村民（参加者 50 人）に道徳研修。土・日曜日，村民や小・中学校の学生に道徳を教える。研修時間は午前と午後 2 時間ずつで，参加者は 40 人ぐらい。古い僧房の変わりに新しい僧房を建設する予定。学生に奨学金の支援。文部省の予算や寺院内の土地により，1997 年託児所を設置する。
［開発方法］不明
［開発と仏法］正しいおこない。悪より遠ざかり，善をなす。
［特技］説法
［開発上の障害］問題なし。1 年に 2 回米を作れるので，村の経済状況は普通。その他，水が溜めてある用水路があるので，雨が降らなくても問題がない。しかし，洪水が時々ある。特に，西部の方は Lampao 川から水が溢れるので，洪水が多い。
［支援団体］村民，文部省。一般人が時々仏教学を教える手伝いをする。
［将来計画］村民を助けたい。30 年たった古僧房にかえて，新しい僧房を建設する。

77
［名前］（出家）Sai Kowitho
［僧侶位階］不明
［出身県］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 Sithan 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 Wang 村 Banwangnoi 寺（マハーニカーイ派），僧侶 2 名。
［年齢］82 歳
［安居年］2 年
［学歴］不明。
［僧学歴］不明。
［寺院内地位］住職。
［僧団内地位］不明。
［履歴］BanSithan, Tambon Dongling に生まれ，出家前の職業は稲作であった。出家の原因は，最初 7 日間だけの出家だと思ったが，出家になってからずっと僧侶の状態を続けることを決心した。
［開発の動機］不明。
［開発開始年］不明。
［開発事業］3 棟僧房の建設（3 棟目工事中）。手間仕事としての畳作り（ゴザ）に村民を誘う。村民から色々な活動についての相談を受ける者（コンサルタント）。村民できる限りの提供。学校の垣根を作ること（未完成）。村民に対する道徳研修。
［開発方法］不明。
［開発と仏法］基本的な仏法を中心に教える。
［特技］村民にお祝いの聖水を作る。
［開発上の障害］なし。村民が何らかの活動を行いたいならば，私を招待する。招待されなかったら，行かない。なぜなら，個人的な村民団体のことのみを考えるからである。
［支援団体］村民のみ。
［将来計画］先ず，未完成の建築物の建設。資金がある場合，他の活動を行う。

78
［名前］（出家）Phrakru Siripunyaphirat（Jhan Katapunyo）
［僧侶位階］師僧
［出身県］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 Sithan 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 4 班 Sithan 村 Sithan 寺（マハーニカーイ派）
［年齢］75 歳
［安居年］42 年

［学歴］小学校 4 年
［僧学歴］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職（1965 年以後）
［僧団内地位］ 1 区の Dongling 区僧団長，Phra Upatchaya
［履歴］BanSithan に生まれ，出家前の職業は稲作であった。結婚後子供 1 人がいる。しかし，妻が他界した。仏教を信じるから出家しにきた。
［開発の動機］不明。
［開発開始年］不明。
［開発事業］僧房，僧堂，布薩堂，寺院の壁，台所などの建設。数種類の木を植える活動。村落と学校開発の活動に村民を誘う。学校に文具の提供。村落の学校とノンフォーマル学校に奨学金を支援し，1 年 30 万バーツ。学校からの奨学金は申請がなければ，支援しない。1997 年託児所を設置する予定。村民の亡くなった親戚のための追善供養をする活動。村民に村落と学校に関する活動について相談を受ける。村民の職業を紹介し，特に農業の職業。
［開発方法］不明。
［開発と仏法］瞑想，村民のための基本な仏法。
［特技］手造や文学作り。
［開発上の障害］なし。
［支援団体］村民，宗教局，バンコクにある株式会社や店からの資本。例えば，ある会社からの寄付 10 万バーツなど。この村落の出身者の部下がバンコクで勤めている会社のオーナーを誘い，その後寺院を信仰するようになるからである。
［将来計画］宗教内の活動。例えば，仏教の布教や村民の支援など。毎週土日曜日の仏教学学校の設立を行う予定。農業の支援，村民に農業についての方法をアドバイス。村民に絵画を教え，専門の職業を持ちたい。一般に，村民は手間仕事として絵を描いている。
［データの提供者］
［名前］PhraMaha Praken
［年齢］51 歳，寺院内地位：副住職
［履歴］14 歳に沙弥として出家し，17 歳になってから住職は私にバンコクに勉強しに行かせた。ここ（現在の寺院）に戻ってから，まだ 3 年間である。バンコクに 30 年間暮らした。最初の学んだ所は Wat Phrachetuphon- wimonmangkalaram（Wat Pho）だった。その他，外国語（英語，ドイツ語，フランス語，日本語）も勉強し，卒業書までもらった。あまり使わないので，今は忘れた。現在とバンコクとの生活を比べたら便利さがほぼ同じで変わらない。どこでも住める。村落の経済的な状況はかなりよいと思う。この寺院は開発村落のエリアにあるので，公共施設などに不足はなく，村民とバンコクの人々との比較をすれば，あまり変わらない。殆どの村民はバンコクに出稼ぎの経験を持つからだ。この村落は 400 世帯の中で村民の半分以上がバンコクに住んだり勉強したりする。ある家族は 2 － 3 人の子供をバンコクに連れて行く。コミュニティに関する昔からの文化習慣もあり，村民の団結と

心情が強いと思う。時代と共にコミュニティが変わっても昔の基本を守って欲しい。タイの僧侶はタイ社会での役割をもっと担うべきだと考える。僧侶は社会で役立つが，まだ足りない。バンコクに住んでいる1級層の師僧から Rachakana 層の師僧まで，僧侶は村落開発のために一緒に田舎に出させるべきだ。特に東北地方である。偉い僧侶の指導者として村民が強く信仰するから。そうすれば，社会開発が少しずつ良くなっていく。このアイデイアは自分が沙弥の時に考え始めている。

79
［名前］（出家）Athikarn Un Paphassaro
［僧侶位階］不明
［出身県］不明
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 3 班 Khoksi 村 Khoksi 寺（マハーニカーイ派）僧侶2名，沙弥1名。
［年齢］83歳
［安居年］23年
［学歴］小学校4年
［僧学歴］仏教学1級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］不明。
［履歴］出家前は村長に二回選出された経験をもつ。1976年，出家。理由は他界した妻を供養するため。以後，現在まで出家生活を続ける。
［開発の動機］不明。
［開発開始年］不明。
［開発事業］僧房，僧堂，トイレ，寺院壁の建設を行う。現在，バンコクで村民が働いている上司と村民の寄付により，300万バーツの新僧堂を建設している。村民に瞑想を教えること。仏教学学校がないが，毎日の朝（仏日以外）村民に仏教学を説教する。
［開発方法］不明。
［開発と仏法］勧業処，善悪功罪を中心に研修する。
［特技］不明。
［開発上の障害］去年の僧房火事があって，建物や物をたくさん失った。
［支援団体］村民，区長補佐。
［将来計画］予算問題。金銭がたくさんあれば，いろいろな活動ができる。今のところは，遺体を置く堂を建てたいと考える。

80
［名前］（出家）Phrakru Warakitsaratham（2003年12月5日，団扇を貰う予定）

［僧侶位階］師僧
［出身県］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 5 班 maui 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 5 班 maui 村 Banmaui 寺（マハーニカーイ派）（Wat Maha-phothiyan-chaisathan-mongkhon）僧侶 5 名，沙弥 1 名。
［年齢］63 歳
［安居年］11 年
［学歴］小学校 4 年
［僧学歴］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職
［僧団内地位］不明
［履歴］出家前，米作りとバンコクでタクシー運転手。現在家族は Bankhok に在住。娘はドイツ人と結婚し現在は Khonkaen に在住。出家の理由。バンコクで働いたときに不倫をし，不倫相手との間に二人の子供を作る。後に不倫相手と別れて Prachinburi 県のある寺院で一年間の出家。
［開発の動機］不明。
［開発開始年］不明。
［開発事業］1997 年託児所を設置する。門，火葬場，僧堂，寺院内の養魚池，僧房，公衆トイレ，Don-Chao-Poo 土地神の祠とその周辺の建設を行う。Don-Chao-Poo 土地神は村民にとって心のよりどころである。毎年 6 月に Don-Chao-Poo 土地神祭を行う。出家後，寺院を支える。例えば，古い僧房の修理や僧房にペンキを塗るなど。寺院内に木や花を植える。毎月 2 回の仏教の日，村民に道徳研修。村民に瞑想をアドバイスしたり，経をあげたり。勉強している沙弥（子供僧）に奨学金の支援。
［開発方法］不明。
［開発と仏法］不明。
［特技］不明。
［開発上の障害］飲み水が足りない。雨水の貯水タンクを建設したいが，予算がない。
［支援団体］村民，自分のお金（住職）を時々出す。
［将来計画］寺院内に花園を作る。遺体を置く堂，寺の鐘楼，放送堂の建設。布薩堂の改装を行いたい，昔の古くて狭い布薩堂にかえて，新しい布薩堂を建設する。

81
［名前］（出家）Phrakru Wimonpraphakorn
［僧侶位階］師僧
［出身県］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 Wang 村
［寺院住所］Kalasin 県 Kamalasai 郡 Dongling 区 12 班 Dongmaung 村 Noonmaung 寺（マハーニカーイ派）僧侶 8 名。

［年齢］78 歳
［安居年］59 年
［学歴］小学校 4 年
［僧学歴］仏教学 3 級
［寺院内地位］住職（1939 以降）
［僧団内地位］ 2 区の Dongling 区僧団長
［履歴］出家は沙弥なって，そのまま僧侶に至る。結婚の経験はなし。
［開発の動機］不明。
［開発開始年］不明。
［開発事業］1979 年-1987 年 919,759.25 バーツを使って Prachasamakkii 僧房の建設。コンテストするために村落開発の活動に村民を誘い，1980 年度全国大会の優秀賞をもらった。僧侶や沙弥に仏教学を教える。村民に対する道徳研修。昔は土・日曜日仏教学学校で教師の経験。インフフォーマル学校や村落の学校に奨学金を支援。
［開発方法］不明。
［開発と仏法］不明。
［特技］呪文で病人を癒す。事故で親戚が亡くなった家族にさらなる事故がないように厄払いの儀式をする。
［開発上の障害］問題なし。なぜなら，彼の開発計画が始まると言われると，村民は全ての活動を信頼して行うからである。彼は偉い僧侶である。（Wat Chaimongkhon の群僧団長と Wat Pathomkesalam も彼の生徒である。）
［支援団体］村民のみ。
［将来計画］本堂（Kala, Karnparian），古い布薩堂にかえて新しい布薩堂を建設したい。
［データの提供者］：
［名前］Phra Sanong Panyawaro（Mauen）［年齢］30 歳，安居年， 1 年，［寺院内地位］寺院に所属する僧侶。